

令和4年度公共事業 再評価諮問箇所個別資料

道路課 道路整備交付金事業 等 8件

1 公共事業再評価諮問箇所一覧表、B/Cの考え方

P1～

2 個別事業箇所資料

- ・ 公共事業再評価諮問箇所「継続」理由書等
- ・ 再評価対象事業箇所調書
- ・ 個別箇所説明資料

① 道路整備交付金事業（小城富士線(松尾)）

P3～

② 道路整備交付金事業（佐賀外環状線(徳万南)）

P10～

③ 道路橋りょう補助事業（佐賀川久保鳥栖線(菅生)）

P 17～

④ 道路橋りょう補助事業（国道 264 号(下西)）

P 24～

⑤ 道路整備交付金事業

（江北芦刈線線(江北・牛津・芦刈)） P 31～

⑥ 道路改良事業事業（国道 444 号(佐賀福富道路)）

P 39～

⑦ 道路改良事業事業（国道 444 号(佐賀道路)）

P 48～

⑧ 道路整備交付金事業（国道 204 号(唐房バイパス工区)）

P 57～

令和4年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

道路課

令和4年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

No.	事業名	事業箇所 (地区名)	事業年度 (上段:前回) (下段:今回)	進捗率 (上段:前回) (下段:今回)	対応方針
1	道路整備交付金事業	小城富士線 (松尾工区)	— H25～R9	— 62%	継続
2	道路橋りょう補助事業	佐賀外環状線 (徳万南工区)	— H25～R7	— 82%	継続
3	道路橋りょう補助事業	佐賀川久保鳥栖線 (菅生工区)	— H25～R5	— 85%	継続
4	道路橋りょう補助事業	国道264号 (下西工区)	— H25～R9	— 44%	継続
5	道路整備交付金事業	江北芦刈線 (江北・牛津・芦刈工区)	H10～R5 H10～R10	94% 93%	継続
6	道路改良事業	国道444号 (佐賀福富道路)	H13～R7 H13～R7	95% 90%	継続
7	道路改良事業	国道208号 (佐賀道路)	H28～R8 H28～R11	5% 23%	継続
8	道路整備交付金事業	国道204号 (唐房バイパス)	H17～R4 H17～R5	74% 74%	継続

道路事業のB/Cの考え方

○総便益(B)：道路整備によって得られる効果を貨幣換算した総便益
(内訳)

- ・走行時間短縮便益 = 自動車1台の時間価値 × 短縮時間 × 交通量
…整備により走行時間が短縮される効果を貨幣換算したもの
- ・走行経費減少便益 = 自動車1台の走行経費 × 走行距離 × 交通量
…整備により走行速度が改善されるに伴う経費の減少を現したもの
- ・交通事故減少便益 = 人身事故件数 × 人身事故1件当たり損失額
…整備により人身事故の減少効果を貨幣換算したもの

○総費用(C)：道路整備及び維持管理に要する総費用
(内訳)

- ・道路整備に要する事業費
- ・道路維持管理に要する費用
- ・道路構造物の更新に要する費用

○費用便益比：総便益(B)/総費用(C)

※便益と維持管理費は、供用開始後50年間で算定

令和4年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

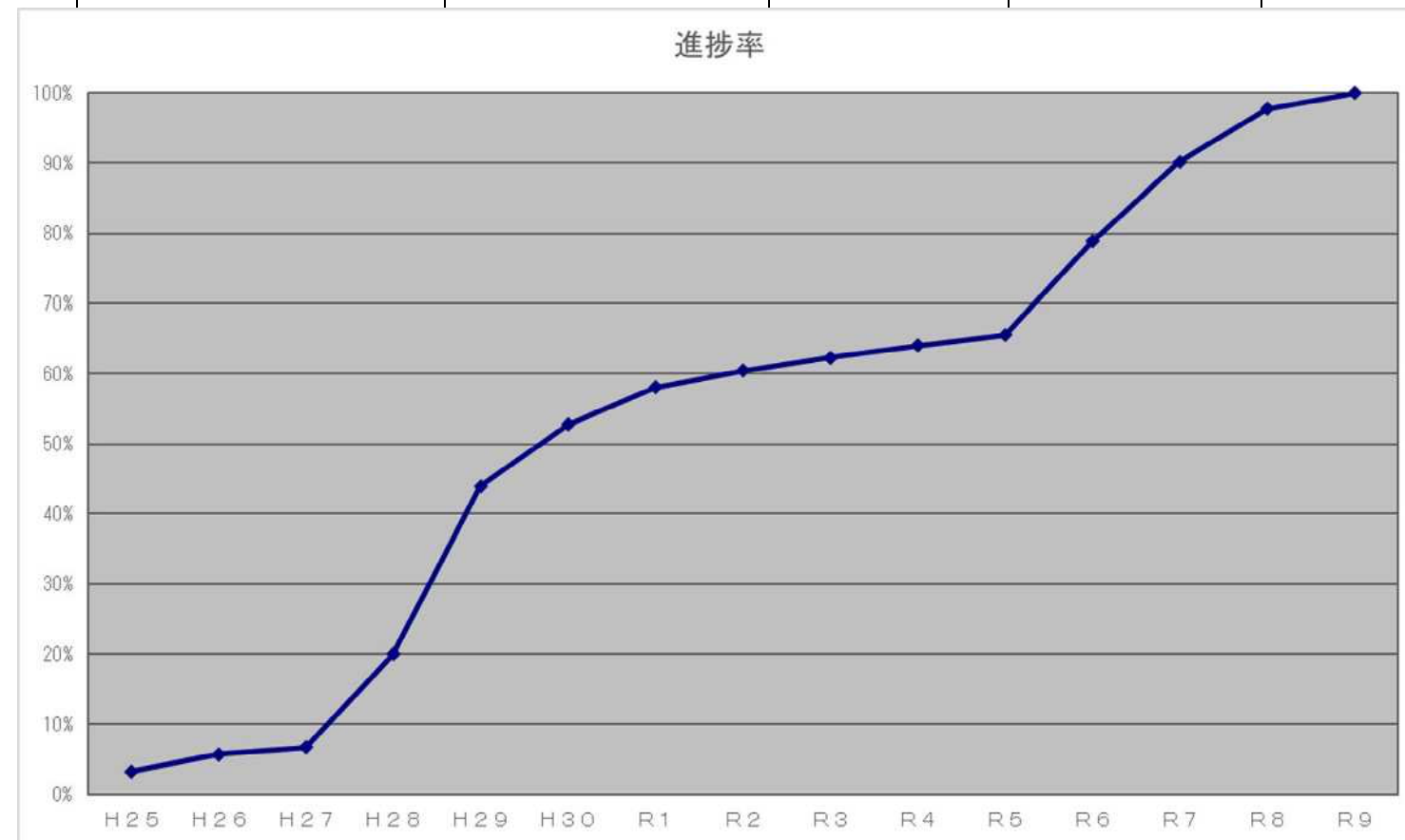
(課名： 道路課)

事業名 (路河川等名)	道路整備交付金事業(防災・安全交付金) 主要地方道 小城富士線(松尾工区)
継続・中止理由	<p>○道路整備により、交通の円滑化や安全性の向上が図られる。 また、緊急輸送道路としての機能向上が期待される。</p> <p>○費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.2)が確保されている。</p> <p>○事業進捗率は、事業費ベースで約62%[約8億円/約14億円](令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約90%(面積ベース)となっている。</p> <p>以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
B/Cの 算出方法	<p>【便益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 = 16.6億円 ・走行費用短縮便益 = 0.2億円 ・交通事故減少便益 = 0.9億円 合計 = 17.7億円 <p>【費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費 = 13.8億円 ・維持修繕費 = 0.9億円 合計 = 14.7億円 <p>費用便益 B/C = 17.7 / 14.7 ≒ 1.2</p> <p>※基準年における現在価値</p>
備考	

令和 4 年度再評価対象事業箇所

(事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)	備考
道路 1	道路整備交付金事業 主要地方道 小城富士線 (松尾工区) 事業主体：県 事業地：小城市 小城町松尾	当路線は、小城市小城市町と佐賀市富士町を結ぶ主要地方道であり、第2次緊急輸送道路にも指定されている重要な路線である。 当該区間は、小城スマートICに接続するアクセス道路であるが、現道区間は、幅員狭小で歩道も未整備である。 このため、当該区間を整備することで交通の円滑化や安全性の向上が図られるものである。また、緊急輸送道路としての機能向上も期待される。	全体事業費：13.5億円 工期：H25～R9 工事内容 延長 L=1.0km 幅員 W=6.0(10.00)m 改良工 L=1.0km 舗装工 L=1.0km 橋梁工 N=1橋 測量試験 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約62% (事業費ベース) (年平均進捗率：約7%) ○用地補償契約率：約90% (面積ベース)	平成30年に小城スマートICが供用開始され、小城市周辺の工業団地や農産品の集荷拠点からの輸送にも活用されている。現在も工業団地の施設拡張が進められるなど、今後更なる小城スマートICの利用が予想され、当該工区の交通量も増加が見込まれるため、依然として事業の必要性は高い。	B/C=1.2 B/Cは1.0を上回っている。	(コスト削減) ・再生資材の利用促進を図っている。 (代替案の検討) ・特になし	事業採択後10年を経過するため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 ・B/Cは1.0以上(1.20)が確保されている。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。	



令和4年度 再評価委員会

道路整備交付金事業

主要地方道 ^{おぎ ふじ} 小城富士線 (^{まつ お} 松尾工区)

^{おぎ おぎ まつ お} 小城市小城市町松尾地内

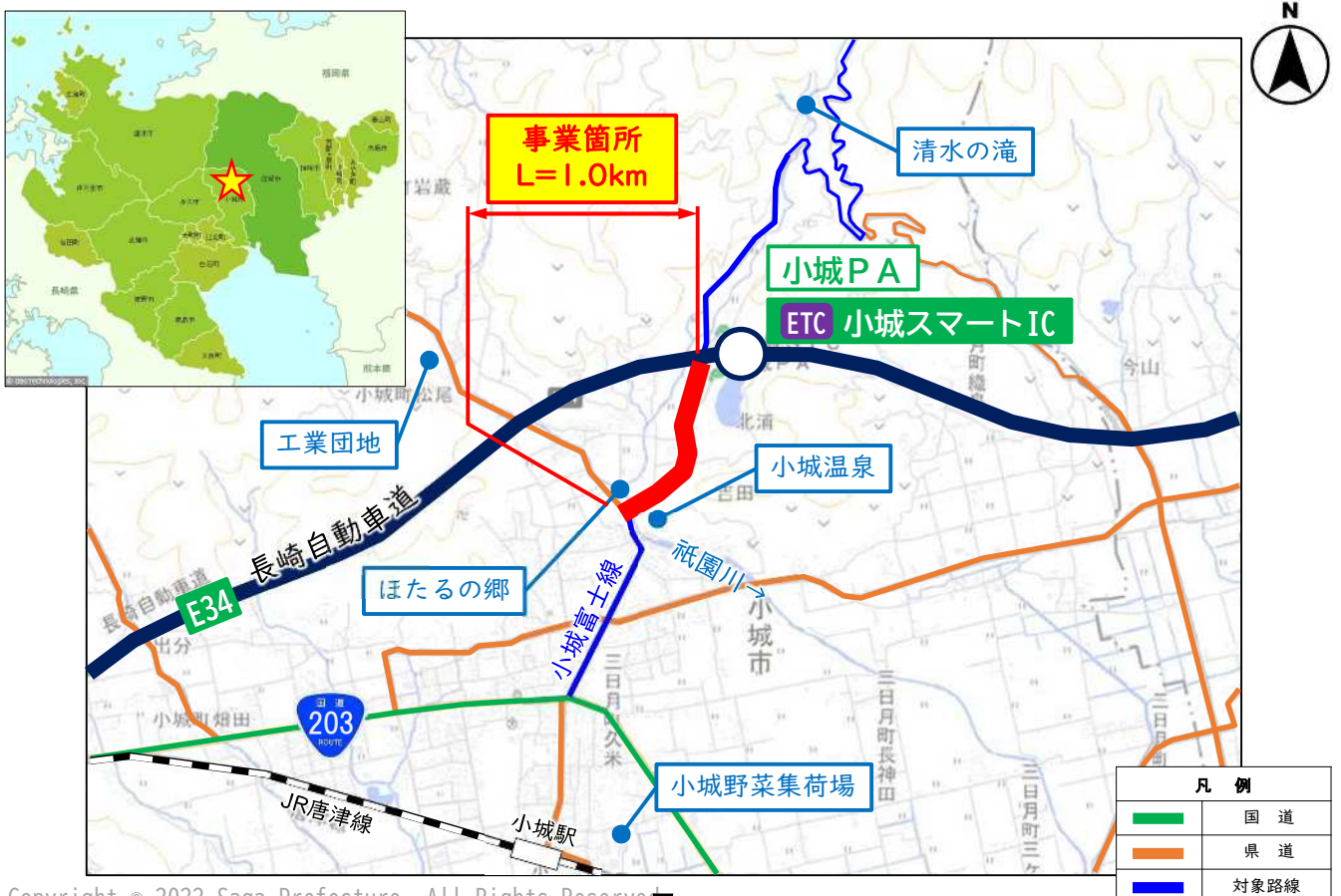
再評価理由

事業採択後10年を経過するため

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい つながる。 Tゾーン 佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



幅員狭小



歩道が未整備
(路肩狭小)

現道拡幅・歩道の設置により

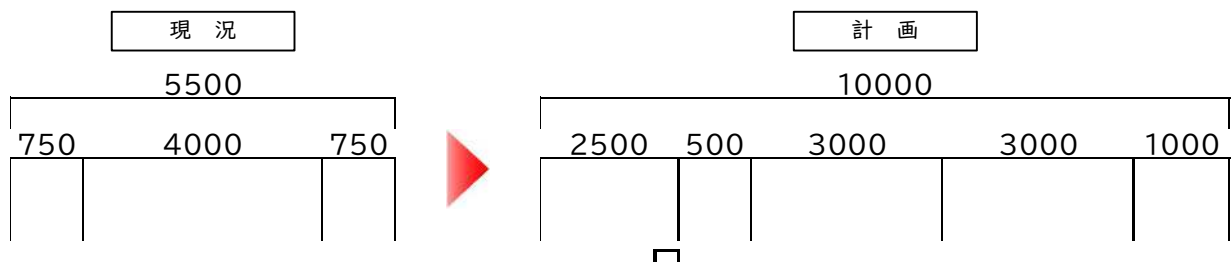
交通の円滑化

安全性の向上

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業概要

	今回
全体事業費	13.5億円
工期	平成25年度～令和9年度
延長	1.0km
幅員	6.0(10.0)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=1.0km ・舗装工 L=1.0km ・橋梁工 N=1橋 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	1.2



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度以降
事業費(億円)	8.4	0.2	4.9
進捗率(%)	62.2	63.7	100.0
用地進捗率(%)※	90.0	90.0	100.0

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

現地状況



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○平成30年に小城スマートICが供用開始され、小城市周辺の工業団地や農産品の集荷拠点からの輸送にも活用されている。
現在も工業団地の施設拡張が進められるなど、今後更なる小城スマートICの利用が予想され、当該工区の交通量も増加が見込まれるため、依然として事業の必要性は高い。

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

費用対効果

○B/Cは1.0を上回っている。

$$\text{費用対効果 (B/C)} = \frac{\text{総便益 (B)} \quad 17.7 \text{ 億円}}{\text{総費用 (C)} \quad 14.7 \text{ 億円}} \div 1.2$$

※基準年（令和4年度）における現在価値

<参考>

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

○再生資材の利用促進を図っている。

(代替案の検討)

○特になし

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

○道路の整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られる。
また、緊急輸送道路としての機能向上が期待される。

○費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.20)が確保されている。

○事業の進捗率は、事業費ベースで約60%[約8億円/約14億円]
(令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約90%となっている。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

令和4年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

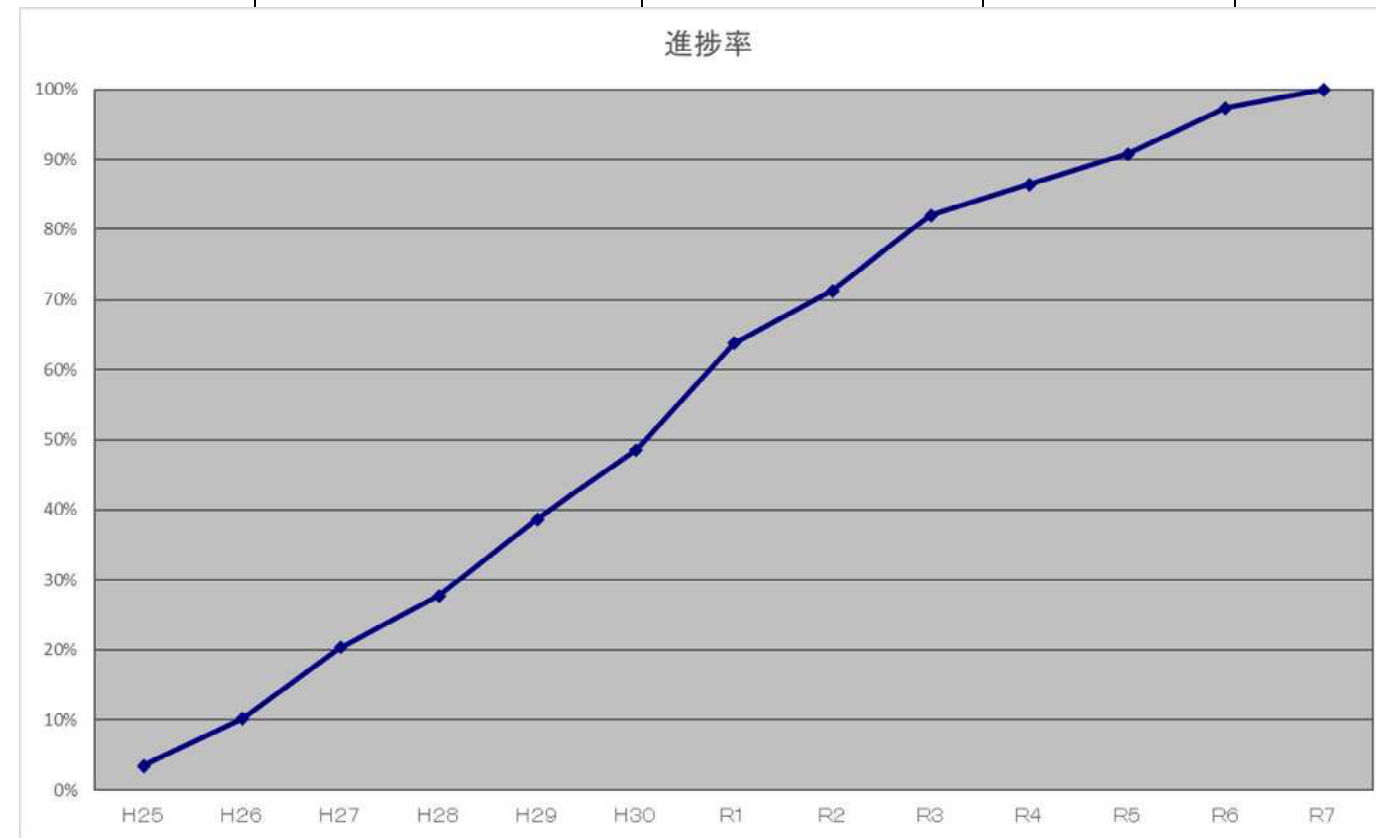
(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路橋りょう補助事業(交通安全対策) 主要地方道 佐賀外環状線(徳万南工区)
継続・中止理由	<p>○自転車歩行者道の設置により、交通の円滑化と自転車歩行者の安全性の向上が図られる。</p> <p>○事業進捗率は、事業費ベースで約82% [約21億円/約26億円] (令和3年度末) であり、そのうち用地進捗率は約99% (面積ベース) となっている。</p> <p>○早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。</p> <p>以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
備考	

令和 4 年度再評価対象事業箇所

(事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)	備考
道路 2	道路橋りょう補助事業 主要地方道 佐賀外環状線 (徳万南工区) 事業主体：県 事業地：佐賀市 久保田町徳万 ～新田	当路線は、佐賀市を中心として、その周辺部を環状する幹線道路である。 当該区間は、通学路に指定されているが、歩道が無い又は1m未満と非常に狭く、通勤通学時間帯には車両と自転車・歩行者が交錯するなど、安全かつ円滑な交通に支障をきたしている状況である。 このため、交通の円滑化及び自転車歩行者の安全性の向上を目的として、整備を実施するものである。	全体事業費：25.6億円 工期：H25～R7 工事内容 延長 L=780m 幅員 W=6.5 (15.0) m 改良工 L=780m 函渠工 N=4基 舗装工 L=780m 測量試験 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約82% (事業費ベース) (年平均進捗率：約9%) ○用地補償契約率：約99% (面積ベース)	有明海沿岸道路の福富ICが令和3年7月に開通したことに伴い、交通量が増加しており、依然として事業の必要性は高い。	—	(コスト削減) ・再生資材の利用促進を図る。 ・工事で発生する残土を盛土等に流用する。 (代替案の検討) ・特になし	事業採択後10年を経過するため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 ・早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。	



令和4年度 再評価委員会

道路橋りょう補助事業

主要地方道 さが そと かんじょう 佐賀外環状線 とく まん みなみ (徳万南工区)

さが く ぼ た とく まん しん でん
佐賀市久保田町徳万～新田

再評価理由

事業採択後10年を経過するため

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい つながる Tゾーン 佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



歩道が未整備
(路肩狭小)



歩道が狭小

自転車歩行者道の整備により

交通の円滑化

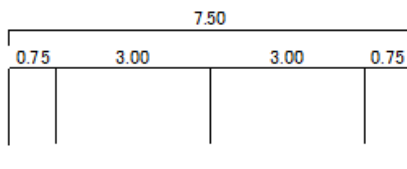
安全性の向上

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

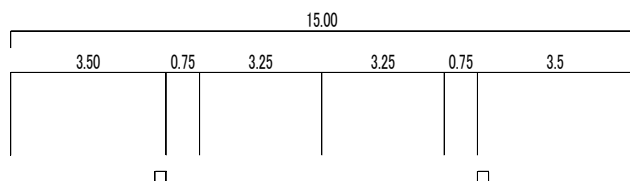
事業概要

	今回
全体事業費	25.6億円
工期	平成25年度～令和7年度
延長	780m
幅員	6.5(15.0)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=780m ・函渠工 N=4箇所 ・舗装工 L=780m ・測量試験 一式 ・用地補償 一式

現況

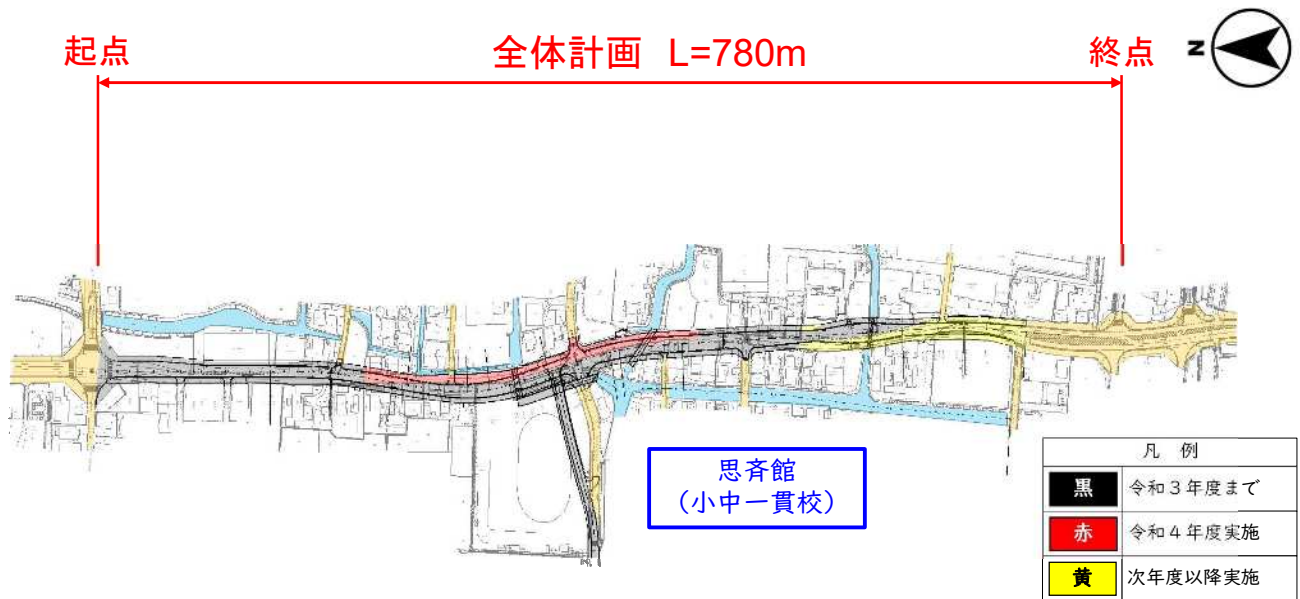


計画



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度以降
事業費 (億円)	20.9	1.1	3.6
進捗率 (%)	81.8	86.2	100.0
用地進捗率 (%) ※	99.5	99.5	100.0

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

現地状況



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○有明海沿岸道路の福富ICが令和3年7月に開通したことに伴い、交通量が増加しており、依然として事業の必要性は高い。

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 再生資材の利用促進を図っている。
- 工事で発生する残土を盛土等に流用する。

(代替案の検討)

- 特になし

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 自歩道整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られる。
- 事業の進捗率は、事業費ベースで約82%[約21億円/約26億円]
(令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約99%となっている。
- 早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和4年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

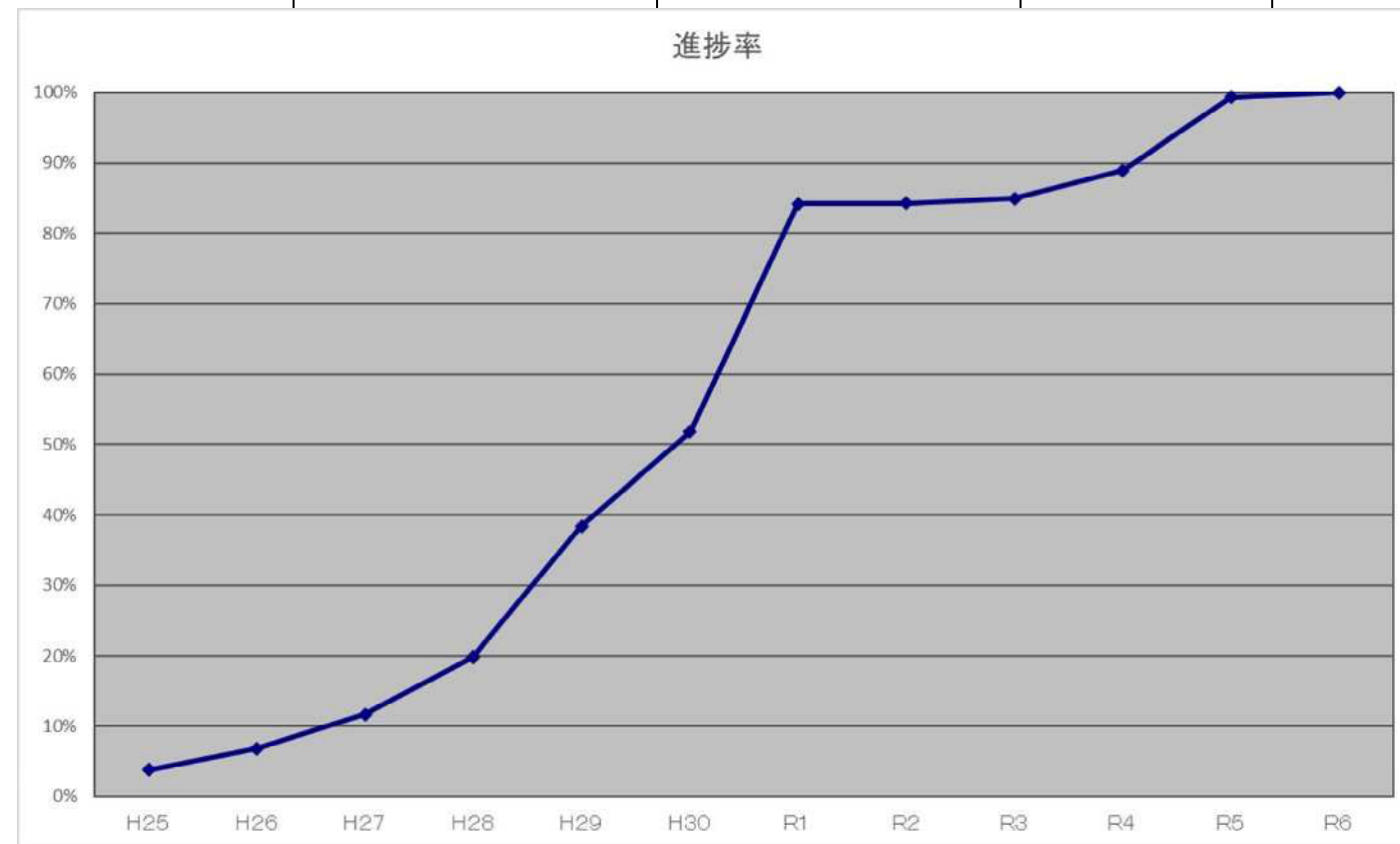
(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路橋りょう補助事業 主要地方道佐賀川久保鳥栖線(菅生工区)
継続・中止理由	<p>○歩道設置により、交通の円滑化と歩行者の安全性の向上が図られる。</p> <p>○事業進捗率は、事業費ベースで約85%[約7億円/約8億円](令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約98%(面積ベース)となっている。</p> <p>以上のことから、当事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
備考	

令和 4 年度再評価対象事業箇所

(事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)	備考
道路 3	道路橋りょう補助事業 主要地方道 佐賀川久保鳥栖線 (菅生工区) 事業主体：県 事業地：神崎市 神埼町城原	当路線は、佐賀市を起点として神崎市を経て、鳥栖市に至る、広域交流、物流の促進、沿線市町の連携強化を図る主要地方道である。 当該区間は、通学路(仁比山小学校)に指定されているが、歩道が未整備となっている。 このため、交通の円滑化及び歩行者の安全性の向上を目的として、整備を実施するものである。	全体事業費：7.7億円 工期：H25～R6 工事内容： 延長 L=880m 幅員 W=6.5(13.0)m 改良工 L=880m 舗装工 L=880m 橋梁工 N=1基 測量試験 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約85% (事業費ベース) (年平均進捗率：約9%) ○用地補償契約率：約98% (面積ベース)	自動車交通量や自転車歩行者数が多く、尚も通学路として利用されており、依然として事業の必要性は高い。	—	(コスト削減) ・再生資材の利用促進を図る。 ・工事で発生する残土を他工区の盛土等に流用する。 (代替案の検討) ・特になし	事業採択後10年を経過するため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。	



令和4年度 再評価委員会

道路橋りょう補助事業

主要地方道 ^{さが かわく ぼ と す} 佐賀川久保鳥栖線 ^{す ご う} (菅生工区)

^{かん さ き} ^{かん さ き} ^{じょう ば る}
神崎市神埼町城原地内

再評価理由

事業採択後10年を経過するため

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい つながる Tゾーン 佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



事業目的



歩道の整備により

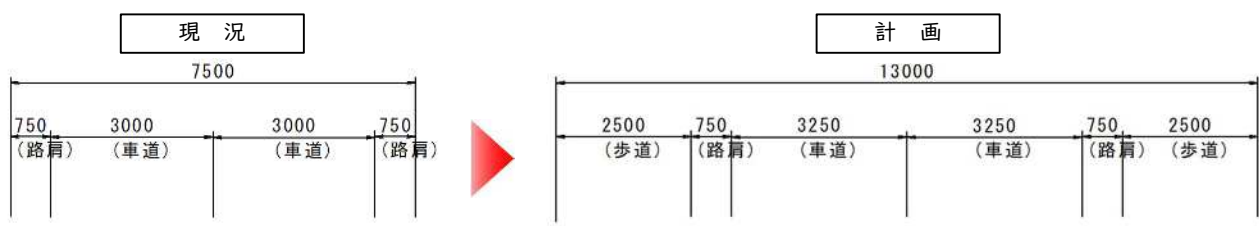
交通の円滑化

安全性の向上

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

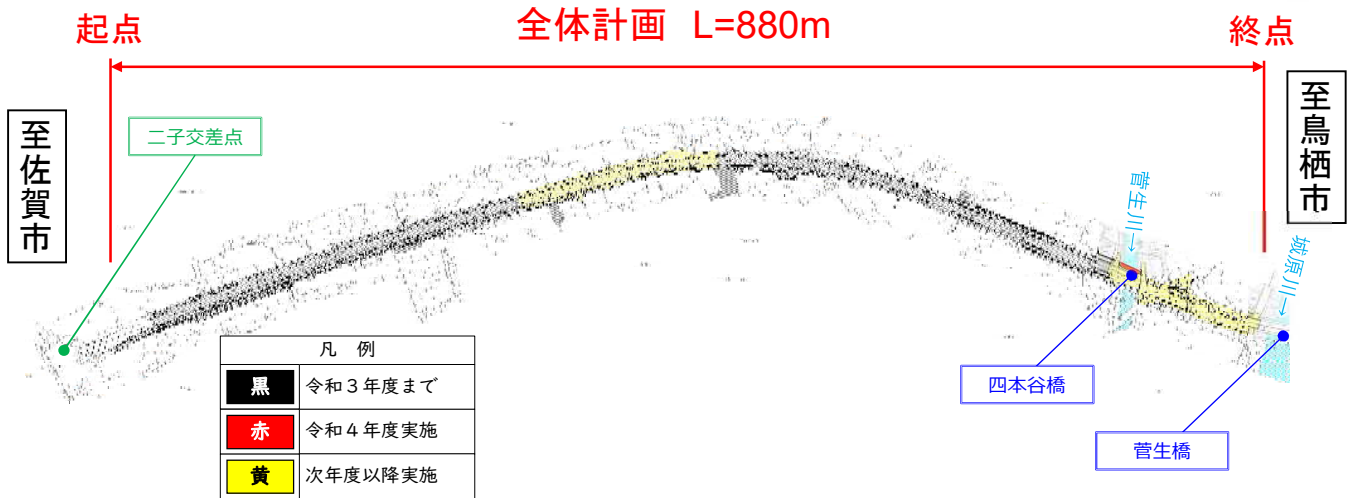
事業概要

	今回
全体事業費	7.7億円
工期	平成25年度～令和6年度
延長	880m
幅員	6.5(13.0)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・改良工 L=880m・舗装工 L=880m・橋梁工 N=1橋・測量試験 一式・用地補償 一式



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度以降
事業費 (億円)	6.5	0.3	0.9
進捗率 (%)	84.8	88.9	100.0
用地進捗率 (%) ※	97.6	97.6	100.0

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

現地状況



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○自動車交通量や自転車・歩行者数が多く、尚も通学路として利用されており、依然として事業の必要性は高い。

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 再生資材の利用促進を図っている。
- 工事で発生する残土を他工区の盛土等に流用する。

(代替案の検討)

- 特になし

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 歩道整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られる。
- 事業の進捗率は、事業費ベースで約85%[約7億円/約8億円]
(令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約98%となっている。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和4年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

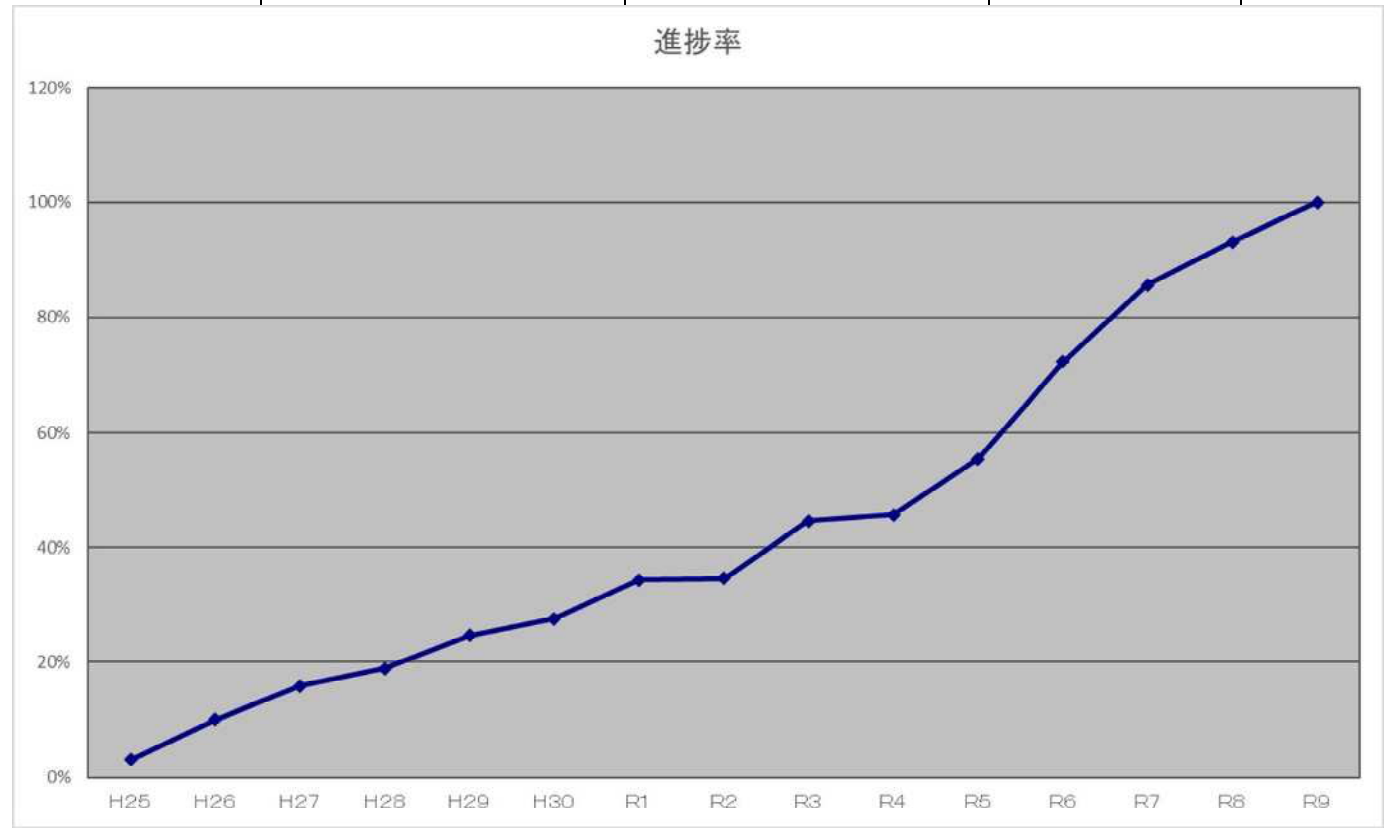
(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路橋りょう補助事業 一般国道264号(下西工区)
継続・中止理由	<p>○自転車歩行道の設置により、交通の円滑化と自転車歩行者の安全性の向上が図られる。</p> <p>○事業進捗率は事業費ベースで約44% [約8億円/約19億円] (令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約43% (面積ベース)となっている。</p> <p>以上のことから、当事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
備考	

令和 4 年度再評価対象事業箇所

(事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)	備考
道路 4	道路橋りょう補助事業 一般国道264号 (下西工区) 事業主体：県 事業地：神崎市 千代田町下西	当路線は、佐賀市を起点として神崎市を経て、福岡県久留米市に至る、広域交流、物流の促進、沿線市町の連携強化を図る主要幹線道路である。 当該区間は、通学路(千代田西部小学校)に指定されているが、歩道が狭小となっている。 このため、交通の円滑化及び自転車歩行者の安全性の向上を目的として、整備を実施するものである。	全体事業費：18.9億円 工期：H25～R9 工事内容： 延長 L=950m 幅員 W=6.5(15.0)m 改良工 L=950m 舗装工 L=950m 橋梁工 N=4基 測量試験 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約44% (事業費ベース) (年平均進捗率：約5%) ○用地補償契約率：約43% (面積ベース)	自動車交通量や自転車歩行者数が多く、尚も通学路として利用されており、依然として事業の必要性は高い。	—	(コスト削減) ・再生資材の利用促進を図る。 ・工事で発生する残土を他工区の盛土等に流用する。 (代替案の検討) ・特になし	事業採択後10年を経過するため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。	



令和4年度 再評価委員会

道路橋りょう補助事業

一般国道264号（^{しも さい}下西工区）

^{かん さき} 神埼市 ^{ち よ だ} 千代田町 ^{しも さい} 下西地内

再評価理由

事業採択後10年を経過するため

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい つながる。 Tゾーン 佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



歩道が未整備
(路肩狭小)



自転車歩行者道の整備により

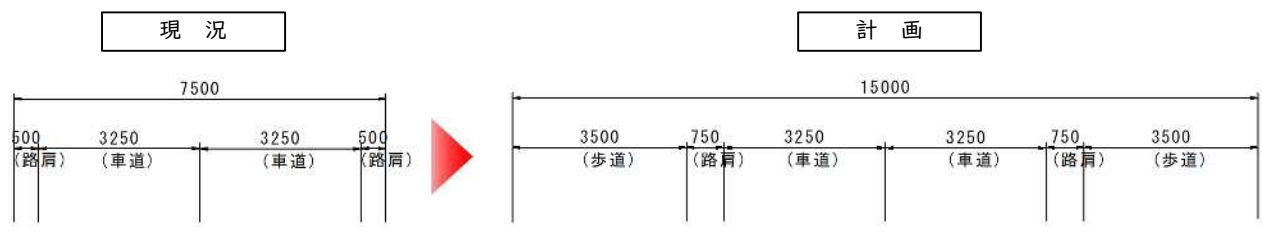
交通の円滑化

安全性の向上

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

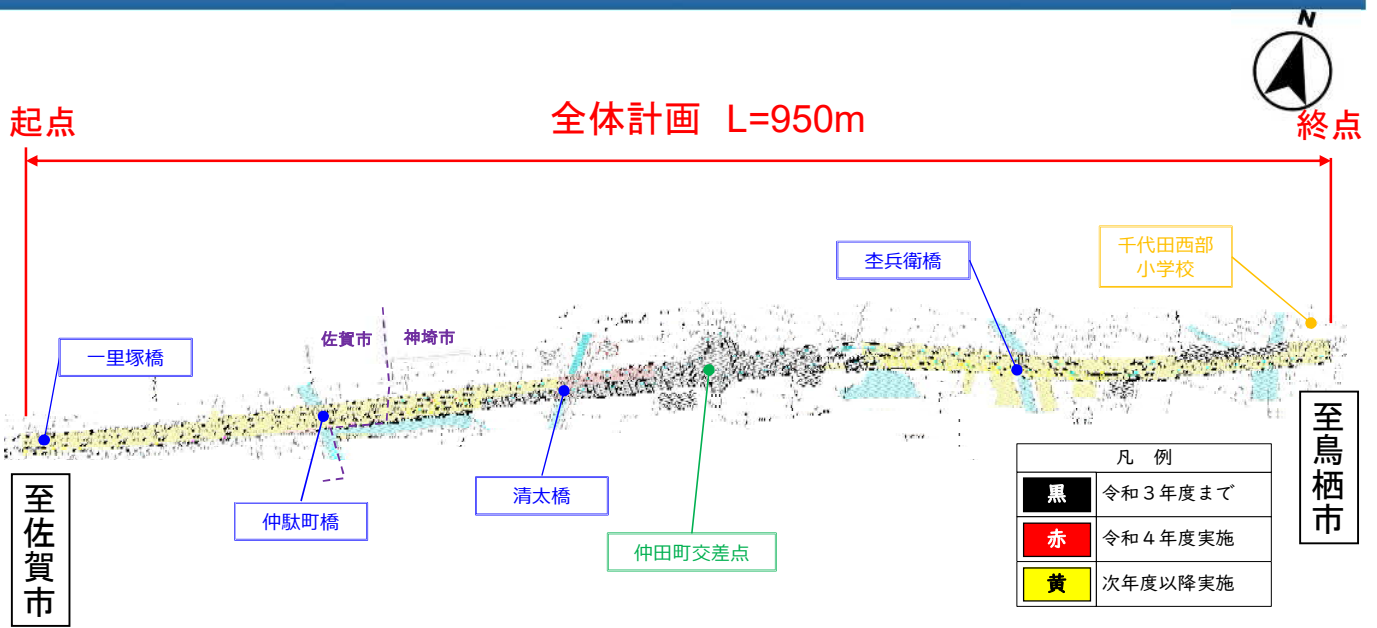
事業概要

	今回
全体事業費	18.9億円
工期	平成25年度～令和9年度
延長	950m
幅員	6.5(15.0)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=950m ・舗装工 L=950m ・橋梁工 N=4橋 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度以降
事業費(億円)	8.4	0.2	10.3
進捗率(%)	44.2	45.3	100.0
用地進捗率(%)※	43.0	45.8	100.0

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

現地状況



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○自動車交通量や自転車・歩行者数が多く、尚も通学路として利用されており、依然として事業の必要性は高い。

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 再生資材の利用促進を図っている。
- 工事で発生する残土を他工区の盛土等に流用する。

(代替案の検討)

- 特になし

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 歩道整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られる。
- 事業の進捗率は、事業費ベースで約43%[約8.1億円/約18.9億円]
(令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約46%となっている。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和4年度公共事業再評価諮問地区「継続・中止」理由書等

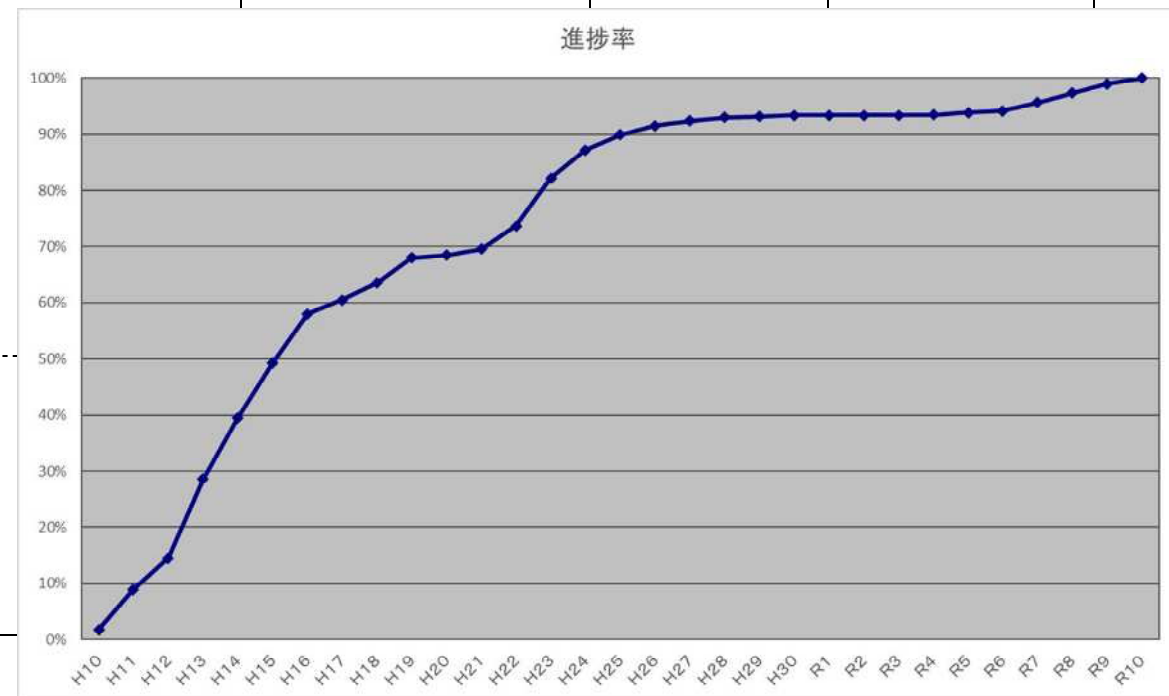
(課名： 道路課)

<p>事業名 (路河川等名)</p>	<p>道路整備交付金事業 (社会資本整備総合交付金) 一般県道江北芦刈線</p>
<p>継続・中止理由</p>	<p>○バイパス整備により、交通混雑の緩和など交通の円滑化や安全性の向上が図られる。</p> <p>○費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.3)が確保されている。</p> <p>○事業進捗率は、事業費ベースで約93% [約130億円/約140億円] (令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約99% (面積ベース)となっている。</p> <p>以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
<p>B/Cの 算出方法</p>	<p>【 便益 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 走行時間短縮便益 = 246.5億円 ・ 走行経費減少便益 = 70.4億円 ・ 交通事故減少便益 = 9.6億円 合計 = 326.5億円 <p>【 費用 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費 = 250.7億円 ・ 維持修繕費 = 4.0億円 合計 = 254.7億円 <p>費用便益 B/C = 326.5 / 254.7 ≒ 1.3</p> <p>※基準年における現在価値</p>
<p>備考</p>	

令和4年度再評価対象事業
(対象：平成29年度再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間(5年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業案)
道路5	H29再評価時点	道路整備交付金事業 一般県道 江北芦刈線 (江北・牛津・芦刈工区) 事業主体：県 事業地：江北町佐留志～小城市芦刈町道免	本路線は、江北町と小城市芦刈町を結び、有明海沿岸道路と連携することにより、佐賀県西部地域と佐賀市、九州佐賀国際空港との連絡強化が期待される重要な道路である。 しかしながら、現道は幅員が狭く、車両の通行に支障を来していることから早急な対応が求められている。 このため、バイパス整備により、交通の円滑化及び交通安全の向上を図るとともに、混雑している国道34号の交通混雑緩和にも寄与するものである。	全体事業費：140.3億円 工期：H10～R5 事業内容： 延長 L=4.6km 幅員 W=13.0(25.0)m 改良工 L=4,211m 舗装工 L=4,600m 橋梁工 2橋(389m) 測量試験 一式 用地補償 一式	H28末進捗率：約94% (事業費ベース) (年平均進捗率：約5%) ○用地補償契約率：約99% H24年度末に暫定形で供用。	・平成24年度末に当該事業区間を暫定形で供用しており、国道34号から交通の転換が図られた。 ・有明海沿岸道路の整備により、更なる交通量の増加が見込まれる。	事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。 B/C=1.44	(コスト削減) ・再生資材の利用促進を図っている。 ・工事で発生する残土を盛土等に流用する。 (代替案の検討) ・特になし	再評価実施後5年が経過のため再評価	継続 (理由) 車両通行による危険な状況が解消されていないため、事業を継続し交通の円滑化及び自転車や歩行者の安全確保を図る。
	R4再評価時点 (今回)			全体事業費：142.0億円 工期：H10～R10 事業内容： 延長 L=4.6km 幅員 W=13.0(25.0)m 改良工 L=4,211m 舗装工 L=4,600m 橋梁工 2橋(389m) 測量試験 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約93% (事業費ベース) (年平均進捗率：約4%) ○用地補償契約率：約99% (面積ベース)	前回評価時より、大きな変化は見られないという状況ではあるものの、依然として事業の必要性は高い。	・事業費増に伴う費用の増加 ・工期延長による便益の減少 B/C=1.3 B/Cは1.0を上回っている。	同上	再評価実施後5年を経過するため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 ・B/Cは1.0以上(1.3)が確保されている。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとした。
	理由等			(事業費) ・水利関係者との協議の結果、付替水路構造が変更となったため。 (事業費) ・上記調整に期間を要したため。						



令和4年度 再評価委員会

道路整備交付金事業

こう ほうく あし かり
一般県道 江北芦刈線

こう ほうく うし づ あし かり
(江北・牛津・芦刈工区)

こう ほうく さる し おぎ あし かり どう め
江北町佐留志～小城市芦刈町道免

再評価理由

再評価実施後5年を経過するため

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

地域間の連携強化

有明沿岸道路へのアクセス道路

国道34号における交通の分散化

幅員狭小

バイパス整備・歩道整備により

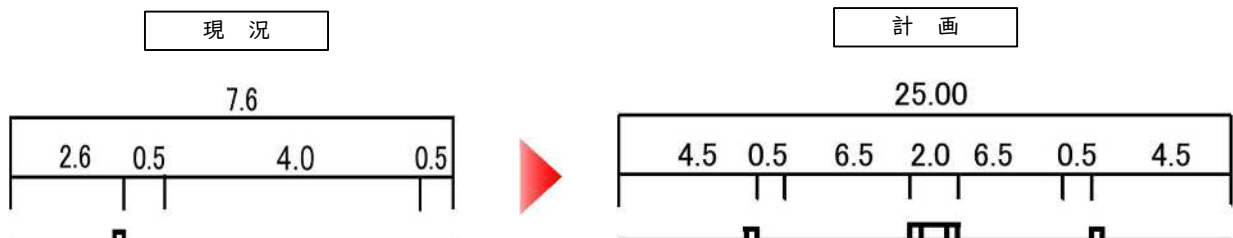
交通の円滑化

安全性の向上

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業概要

	前回再評価 (H29)	今回 (R4)
全体事業費	140.3億円	142.0億円
工期	平成10年度～令和5年度	平成10年度～令和10年度
延長	4.6km	4.6km
幅員	13.0(25.0)m	13.0(25.0)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=4.2km ・舗装工 L=4.6km ・橋梁工 N=2橋 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式 	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=4.2km ・舗装工 L=4.6km ・橋梁工 N=2橋 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	1.4	1.3



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度以降
事業費(億円)	132.6	0.1	9.3
進捗率(%)	93.4	93.4	100.0
用地進捗率(%)※	98.9	98.9	100.0

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

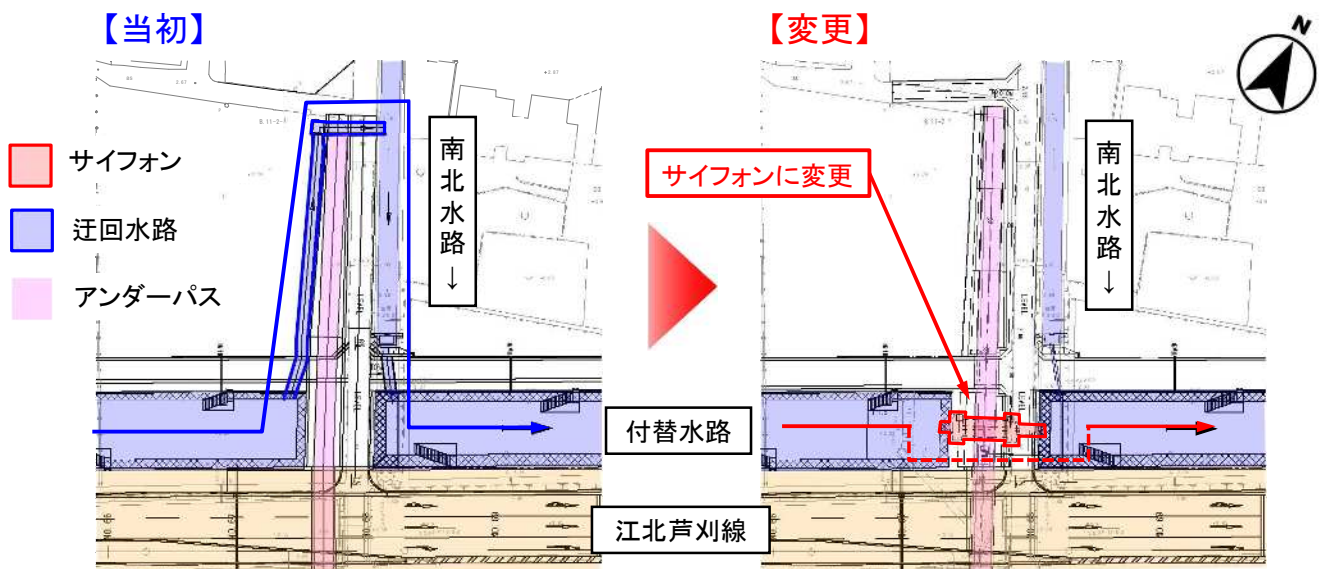
事業内容の見直し理由

(事業費の増額)

○水利関係者との協議の結果、付替水路の構造が変更となったため。

(工期の延伸)

○上記調整に期間を要したため。



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

現地状況



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○前回再評価時より、大きな変化は見られないという状況ではあるものの、依然として事業の必要性は高い。

(前回再評価(H29)時点)

- 平成24年度末に当該事業区間を暫定形で供用しており、国道34号から交通の転換が図られた。
- 有明海沿岸道路の整備により、更なる交通量の増加が見込まれる。

費用対効果

- 事業内容の見直し（事業費増）に伴う費用の増加
- 事業期間の延伸に伴う便益の減少

$$\text{費用対効果 (B/C)} = \frac{\text{総便益 (B) 326.5 億円}}{\text{総費用 (C) 254.7 億円}} \div 1.3$$

※基準年（令和4年度）における現在価値

<参考>

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 再生資材の利用促進を図っている。
- 工事で発生する残土を盛土等に流用する。

(代替案の検討)

- 特になし

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 道路の整備により、「交通の円滑化」や「安全性の向上」が図られる。
- 費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.3)が確保されている。
- 事業の進捗率は、事業費ベースで約93%[約130億円/約140億円]
(令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約99%となっている。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和4年度公共事業再評価諮問地区「継続・中止」理由書等

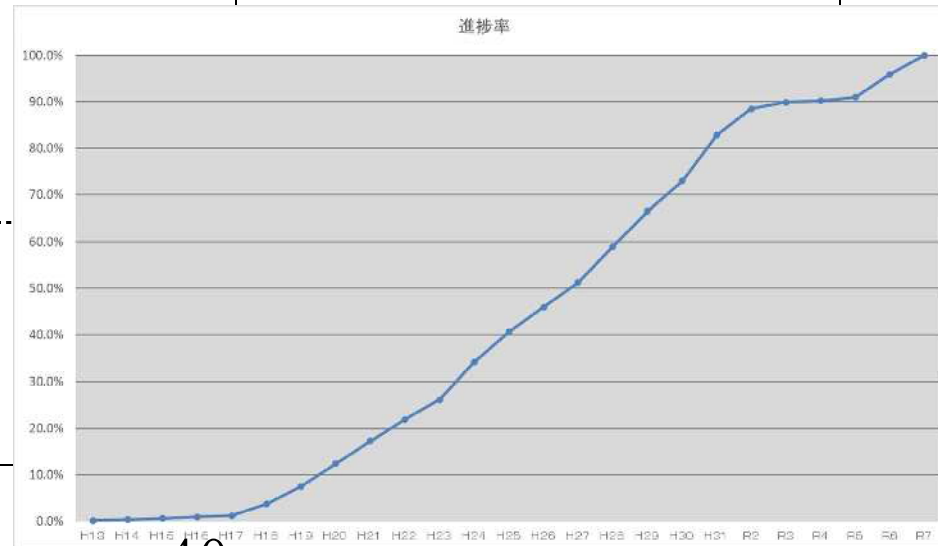
(課名：道路課)

<p>事業名 (路河川等名)</p>	<p>道路改良事業 一般国道444号(佐賀福富道路)</p>
<p>継続・中止理由</p>	<p>○佐賀福富道路の整備により、産業・観光の活性化や交通渋滞緩和および交通の円滑化、安全性の向上が図られる。</p> <p>○費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.9)が確保されている。</p> <p>○事業進捗率は、事業費ベースで約90%[約557億円/約620億円](令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は100%となっている。</p> <p>○各市町による期成会や協議会の設立、要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。</p> <p>以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
<p>B/Cの算出方法</p>	<p>【便益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 走行時間短縮便益 = 1,217.1億円 ・ 走行経費減少便益 = 275.9億円 ・ 交通事故減少便益 = 50.6億円 <p style="text-align: right;">合計 1,543.6億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費 = 797.9億円 ・ 維持管理費 = 16.0億円 <p style="text-align: right;">合計 813.9億円</p> <p>費用便益 B/C = 1,543.6 / 813.9 ≈ 1.9</p>
<p>備考</p>	

令和 4 年度再評価対象箇所
(対象：令和 3 年度再評価実施箇所)

(再評価実施後、一定期間 (5年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
道路 6	R3 再評価 時点	道路改良事業 一般国道444号 (佐賀福富道路) 事業主体：県 事業地：佐賀市嘉瀬町～杵島郡白石町福富	有明海沿岸道路は、福岡県大牟田市から佐賀県鹿島市に至る有明海沿岸地域の各都市の交流促進及び佐賀空港と三池港との連携強化を図る約55kmの地域高規格道路である。 そのうち佐賀福富道路は、有明海沿岸道路の一部を構成し、平行する一般国道444号の交通渋滞及び交通隘路区間の回避を目的とした10.5kmの2車線のバイパスを施工するものである。 有明海沿岸道路については、各市町による期成会や協議会の設立、要望活動が行われるなど、早期整備が望まれている。	全体事業費：580億円 工期：H13～R7 事業内容 延長：10.5km 幅員：7.0(10.5)m 【暫定2車整備】 改良工 L=10.5km 橋梁工 4橋(50m以上) 舗装工 L=10.5km 測定 一式 用地補償 一式	R2末進捗率：約95% (事業費ベース) (年平均進捗率：約5%) ○用地補償契約率：約96% ○平成23年3月 嘉瀬南IC～久保田IC間のL=1.7kmを供用開始 ○平成25年3月 久保田IC～芦刈IC間のL=2.8kmを供用開始 ○平成28年3月 芦刈IC～芦刈南IC間のL=2.0kmを供用開始 ○令和3年7月 芦刈南IC～福富北IC～福富IC間のL=3.5kmを供用開始	交通量の推移 ○久保田町搦西 H6 14,345台/日(基準) H9 15,937台/日(1.11) H11 15,713台/日(1.10) H17 18,443台/日(1.29) H22 18,842台/日(1.31) H27 14,823台/日(1.03) ○白石町福富 H6 14,908台/日(基準) H9 15,594台/日(1.05) H11 16,342台/日(1.10) H17 18,002台/日(1.21) H22 16,938台/日(1.14) H27 16,150台/日(1.08) ○その他社会情勢の変化 ・九州佐賀国際空港にLCC就航(H26) ・平成25年5月に佐賀県医療センター好生館が開院。 ・道の駅しろいしが令和元年6月にオープン。 ・佐賀福富道路の先線である福富鹿島道路が整備区間に指定された(H17.3) ・令和3年7月に福富ICが供用され、嘉瀬南ICから福富ICまでの10kmが繋がった。 ・利便性向上により、有明海沿岸道路の利用者が増えた。(嘉瀬南IC利用) 10,733台/12時間 ⇒ 13,019台/12時間(+2,286台/12時間)	・工期延長による便益の減少 B/C=2.0	(コスト削減) ・本工区は、全線軟弱地盤上に構築することとなるため、地盤特性を的確に把握し効率的な軟弱地盤対策工法を選定しコスト削減を図る。 ・他工事で発生する残土を本工事の盛土等に流用し、コスト削減を図る。 (代替案の検討) ・特になし	前回評価時より工期延長のため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 ・B/Cは1.0以上(2.01)が確保されている。 ・要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
	R4 再評価 時点 (今回)			全体事業費：620億円 工期：H13～R7 事業内容 延長：10.5km 幅員：7.0(10.5)m 【暫定2車整備】 改良工 L=10.5km 橋梁工 4橋(50m以上) 舗装工 L=10.5km 測定 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約90% (事業費ベース) (年平均進捗率：約4%) ○用地補償契約率：100%	○その他社会情勢の変化 ・(国)大川佐賀道路は、平成21年3月に一部一般道を利用した供用開始を行い、随時延伸が行われている。令和4年11月には諸富ICが開通。	・事業費増に伴う費用の増加 B/C=1.9 B/Cは1.0を上回っている。	同上	再評価実施後5年を経過する前に事業費増額を行うため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 ・B/Cは1.0以上(1.9)が確保されている。 ・要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
	理由等			(事業費) ・軟弱地盤対策工法の見直しによる増 ・盛土材の確保に係る土砂運搬費の増						



令和4年度 再評価委員会

道路改良事業

一般国道444号（佐賀福富道路）

佐賀市嘉瀬町～杵島郡白石町福富

再評価理由

再評価実施後5年を経過する前に事業費増額を行うため

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

佐賀県 県土整備部 道路課

位置図

福岡県大牟田市と佐賀県鹿島市を結ぶ、延長約55kmの地域高規格道路



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

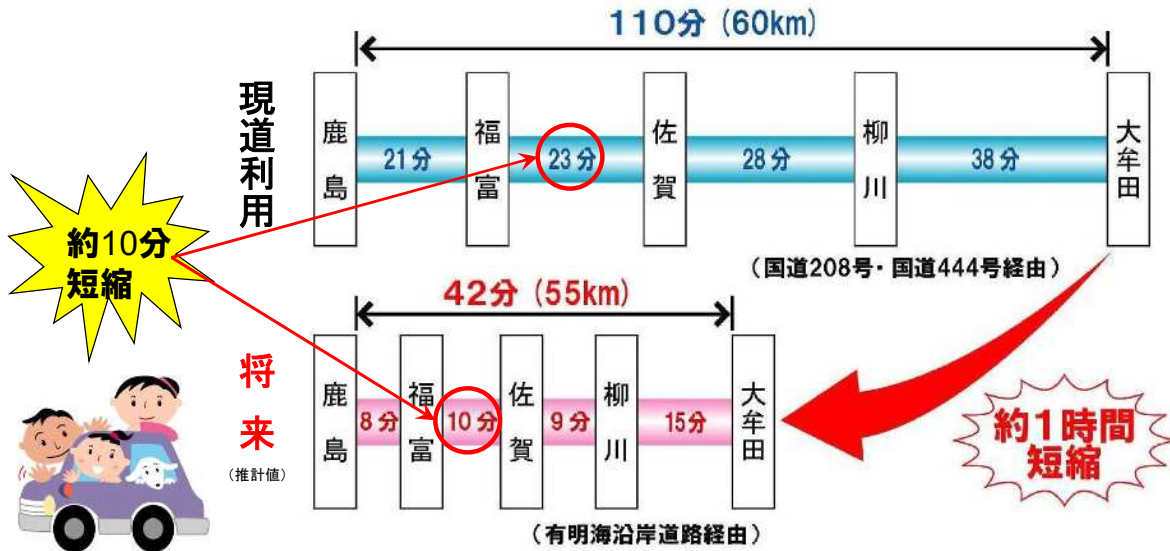
事業目的

人・モノ・地域がさらに近くなり県民の生活がますます便利に!

○移動時間が短くなり、

自動車通勤などの日常生活

が便利になります。



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

○輸送距離が短縮され、農産物や海産物などの産品を、遠くまで鮮度を保ったまま出荷できます。

新たな地域の活性化に



れんこん



まぐろ



まぐろ

○今まで使っていた道路の交通量が減少します。

渋滞の緩和



17,568台/12h(H22.10)

33%減少
(約△5,700台/12h)



現道からの交通転換



〈現道〉

11,167台/12h(R1.11)

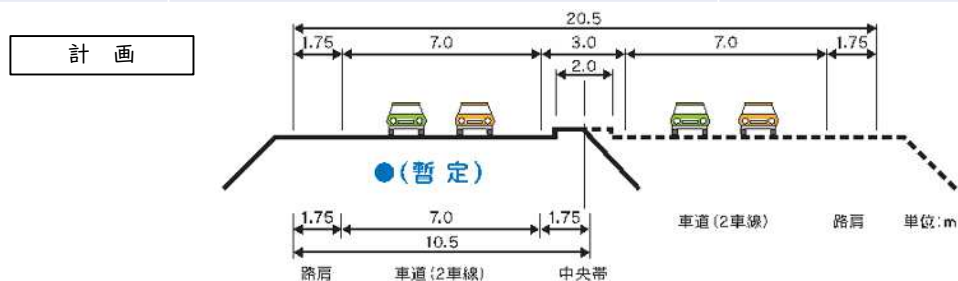
〈有明海沿岸道路〉



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業概要

	前回再評価 (R3)	今回 (R4)
全体事業費	580億円	620億円
工期	平成13年度～令和7年度	平成13年度～令和7年度
延長	10.5km	10.5km
幅員	7.0(10.5)m	7.0(10.5)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=10.5km ・橋梁 N=4橋(50m以上) ・舗装工 L=10.5km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式 	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=10.5km ・橋梁 N=4橋(50m以上) ・舗装工 L=10.5km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	2.0	1.9



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況

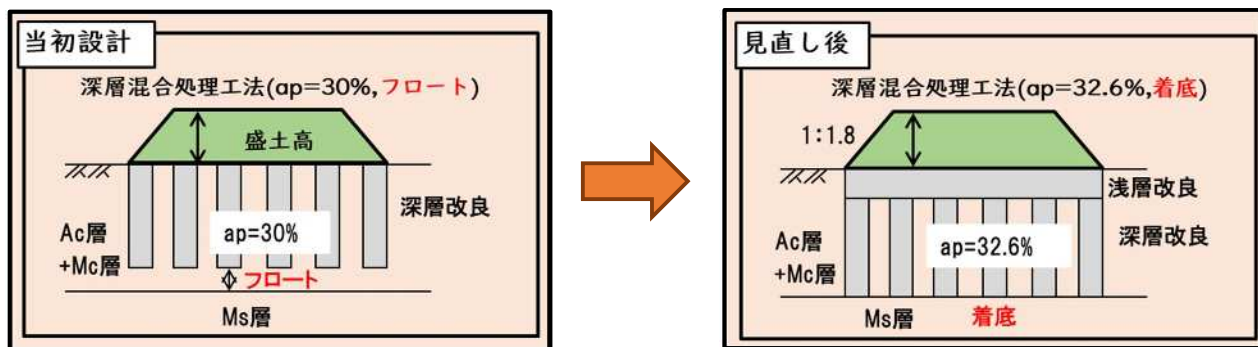


	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度以降
事業費(億円)	557.3	2.0	60.7
進捗率(%)	89.9	90.2	100.0
用地進捗率(%)	96.2	100.0	100.0

事業内容の見直し理由(1/2)

①軟弱地盤対策工法の見直しによる増

○軟弱地盤対策工法として、「フロート式による深層混合処理工法」で工事を進めていたが、変位が大きく出た箇所が確認された。これについて、実証盛土を行い、軟弱地盤対策工法技術検討委員会に諮った結果、「浅層改良+着底式による深層混合処理工法」に変更となったため、工事費が増となった。



《対策工法》
深層混合処理（フロート）

《対策工法》
浅層改良+深層混合処理（着底）

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業内容の見直し理由(2/2)

②盛土材の確保に係る土砂運搬費の増

○当初予定していた近場の土取り場が不足しており、遠方より土砂を確保する必要が生じたため、それに係る運搬費が増となった。



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

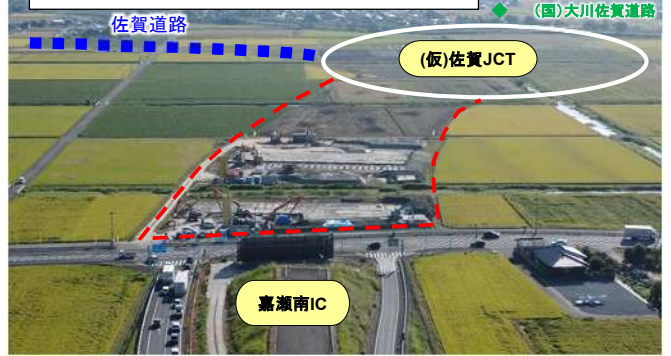
現地状況



現地状況((仮)佐賀JCTから嘉瀬南ICを望む。整備中)



現地状況(嘉瀬南ICから東を望む。整備中)



事業を巡る社会経済情勢等の変化

○前回再評価時より大きな変化は見られず、依然として事業の必要性は高い。

(前回再評価(R3)時点)

○令和3年7月に福富ICを供用したことで、嘉瀬南ICから福富ICまで約10kmがつながった。
これにより、利便性が向上し有明海沿岸道路の利用者が増えた。

(嘉瀬南IC利用) 10,733台⇒13,019台 (+2,286台) [台/12時間]

費用対効果

○事業内容の見直し（事業費の増加）に伴う費用の増

$$\text{費用対効果 (B/C)} = \frac{\text{総便益 (B) } 1, 544 \text{ 億円}}{\text{総費用 (C) } 814 \text{ 億円}} \div 1.9$$

※基準年（令和4年度）における現在価値

<参考>

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 全線軟弱地盤上に構築することとなるため、地盤特性を的確に把握し効率的な軟弱地盤対策工法を選定している。
- 他工事で発生する残土を盛土等に流用する。

(代替案の検討)

- 特になし

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 道路の整備により、「産業・観光の活性化」や「交通の円滑化」及び「安全性の向上」が図られる。
- 費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.9)が確保されている。
- 事業の進捗率は、事業費ベースで約90%[約557億円/約620億円](令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は100%となっている。
- 各市町による期成会や協議会の設立、要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和4年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

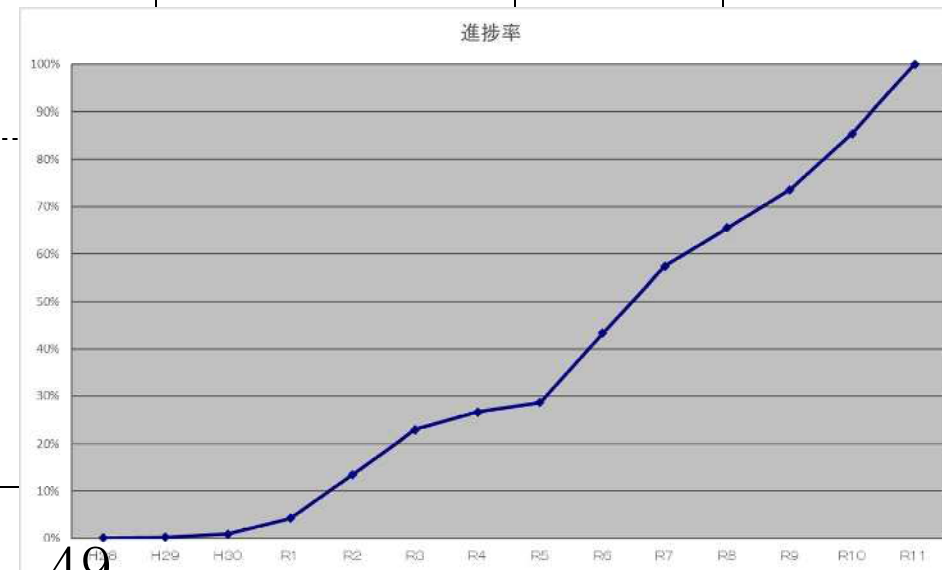
(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路改良事業 一般国道208号(佐賀道路)
継続・中止理由	<p>○佐賀道路の整備により、産業・観光の活性化や交通の円滑化及び安全性の向上が図られる。</p> <p>○費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.6)が確保されている。</p> <p>○事業進捗率は、事業費ベースで約23%[約101億円/約447億円](令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は54%となっている。</p> <p>○各市町による期成会の設立、要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。</p> <p>以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
B/Cの算出方法	<p>【便益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 走行時間短縮便益 = 527.3億円 ・ 走行経費減少便益 = 60.4億円 ・ 交通事故減少便益 = 31.3億円 <li style="padding-left: 40px;">合計 619.0億円 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費 = 372.8億円 ・ 維持管理費 = 3.9億円 <li style="padding-left: 40px;">合計 376.7億円 <p>費用便益 B/C = 619.0 / 376.7 ≒ 1.6</p>
備考	

令和 4 年度再評価対象箇所
(対象：令和 2 年度再評価実施箇所)

(再評価実施後、一定期間 (5年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
道路 7	R2 再評価 時点	道路改良事業 一般国道208号 (佐賀道路) 事業主体：県 事業地：佐賀市 鍋島町～佐賀 市嘉瀬町	佐賀唐津道路は、佐賀県唐津市と佐賀市を結び西九州自動車道や有明海沿岸道路と連結して広域的なネットワークを形成し、沿線各都市の交流促進及び九州佐賀国際空港の発展が期待される地方創生を下支えする重要な地域高規格道路である。 佐賀道路は佐賀唐津道路の一部を構成する道路であり、一般国道208号の交通渋滞の緩和や、交通安全の確保を図るとともに、災害時の緊急輸送道路や代替道路としての機能確保を目的とする道路である。 さらに九州佐賀国際空港や高度専門医療により県民の尊い命を守る佐賀県医療センター好生館へのアクセスを強化するエリア「Tゾーン」を構成する道路である。	全体事業費：368億円 工期：H28～R8 事業内容 延長：4.2 km 幅員：14.0 (20.5) m 【完成 4 車線整備】 改良工 L=4.2 km 橋梁工 4橋 (50m以上) 舗装工 L=4.2 km 測量試験 一式 用地補償 一式	R1末進捗率：約5% (事業費ベース) (年平均進捗率：約 1%) ○用地補償契約：約17% ・平成28年度 調査、測量 ・平成29年度 地質調査 ・平成30年度 調査・設計 ・令和元年度 用地測量、道路設計、用地買収着手 ・令和2年度 工事着手	交通量の推移 ○佐賀市八戸 H27 21,710台/日 (基準) ○その他社会情勢の変化 ・佐賀福富道路： 芦刈IC～芦刈南IC間 L=2.0km供用 (H28.3) ・佐賀唐津道路 多久佐賀間 (佐賀道路含む) 約15kmの都市計画決定の手続き及び、環境影響評価手続きが完了 (H28.3)	事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。 B/C=2.0	(コスト削減) ・本工区は、全線軟弱地盤上に構築することとなるため、地盤特性を的確に把握し効率的な軟弱地盤対策工法を選定しコスト削減を図る。 ・他工事で発生する残土を本工事の盛土等に流用し、コスト削減を図る。 (代替案の検討) ・特になし	採択後 5 年経過 (国土交通省の再評価実施要領より)	継続 (理由) 当該箇所の事業の必要性に変化はなく、産業・観光振興、交通の円滑化、交通安全の向上、災害時の緊急輸送道路や代替道路としての機能確保を図るため、事業を継続したい。
	R4 再評価 時点 (今回)			全体事業費：447億円 工期：H28～R11 事業内容 延長：4.2 km 幅員：14.0 (20.5) m 【完成 4 車線整備】 改良工 L=4.2 km 橋梁工 4橋 (50m以上) 舗装工 L=4.2 km 測量試験 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約23% (事業費ベース) (年平均進捗率：約4%) ○用地補償契約：約54% ・令和2年度 地盤改良工、盛土工 ・令和3年度 地盤改良工、盛土工、函渠工 ・令和4年度 橋梁下部工、函渠工	○その他社会情勢の変化 ・佐賀福富道路： 芦刈南IC～福富IC間 L=3.5km供用 (R3.7) ・大川佐賀道路： 大野島IC～諸富IC間 L=1.7km供用 (R4.11) ・九州佐賀国際空港ターミナルビルの増築 (R3.7) ・佐賀大学医学部付属病院の機能拡充のための改築 (R5完了予定)	・事業費増に伴う費用の増加 ・工期延長による便益の減少 B/C=1.6 B/Cは1.0を上回っている。	同上	再評価実施後 5 年を経過する前に工期延長及び事業費増額を行うため再評価	継続 (理由) ・事業の必要性に変わりはない。 ・B/Cは1.0以上 (1.6) が確保されている。 ・要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
	理由等			(事業費) ・軟弱地盤対策工法の見直しによる増 ・盛土材の確保に係る土砂運搬費の増 (工期) ・JR跨線橋の関係機関協議に伴う工期の延長						



令和4年度 再評価委員会

道路改良事業

一般国道208号（佐賀道路）

佐賀市鍋島町～佐賀市嘉瀬町

再評価理由

再評価実施後5年を経過する前に工期延長及び事業費増額を行うため

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

時間短縮・定時性の確保

佐賀唐津道路の整備により、佐賀市～唐津市間の所要時間が

現道利用：86分 → 将来：65分
(一般道) (推計値)

約21分短縮!

地域間の交流支援
に大きく寄与!



※市役所間の所要時間（多久市は最寄ICまでの所要時間）
 ※現況はH29.7時点、将来は佐賀唐津道路全線を利用
 ※所要時間算出時の速度は以下の通り
 ・佐賀唐津道路：〔現況〕H27道路交通センサスの混雑時旅行速度
 〔将来〕規制速度
 ・その他道路：道路交通センサスの混雑時旅行速度
 ※資料：H27道路交通センサス（国土交通省資料より）



▲所要時間の変化

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

交通事故減少・交通渋滞緩和

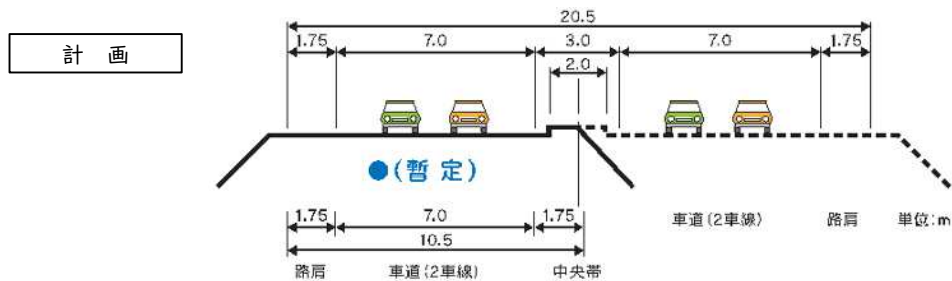
国道208号(現道)の渋滞状況



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業概要

	前回再評価 (R2)	今回 (R4)
全体事業費	368億円	447億円
工期	平成28年度～令和8年度	平成28年度～令和11年度
延長	4.2km	4.2km
幅員	14.0(20.5)m	14.0(20.5)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=4.2km ・橋梁 N=4橋(50m以上) ・舗装工 L=4.2km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式 	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=4.2km ・橋梁 N=4橋(50m以上) ・舗装工 L=4.2km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	2.0	1.6



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度以降
事業費(億円)	100.9	15.6	330.5
進捗率(%)	22.6	26.1	100.0
用地進捗率(%)※	53.7	81.8	100.0

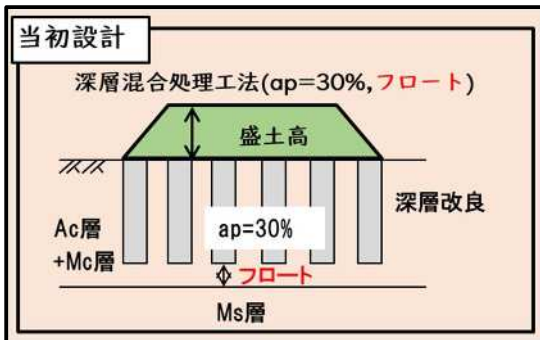
※面積ベース

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

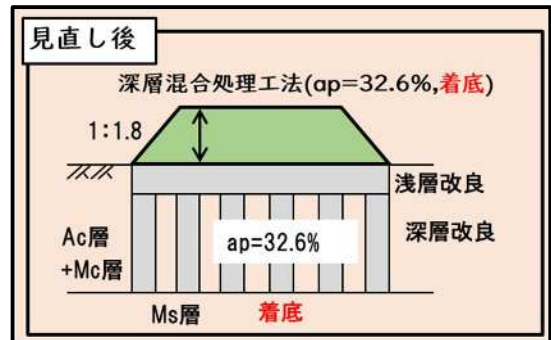
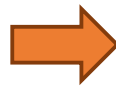
事業内容の見直し理由(1/2)

① 軟弱地盤対策工法の見直しによる増

○軟弱地盤対策工法として、「フロート式による深層混合処理工法」で計画していたが、有明海沿岸道路（佐賀福富道路）において、変位が大きく出た箇所が確認された。これについて、実証盛土を行い、軟弱地盤対策工法技術検討委員会に諮った結果、「浅層改良+着底式による深層混合処理工法」に変更となったため、工事費が増となった。



《対策工法》
深層混合処理（フロート）



《対策工法》
浅層改良+深層混合処理（着底）

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業内容の見直し理由(2/2)

② 盛土材の確保に係る土砂運搬費の増

○当初予定していた近場の土取り場が不足しており、遠方より土砂を確保する必要が生じたため、それに係る運搬費が増となった。



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

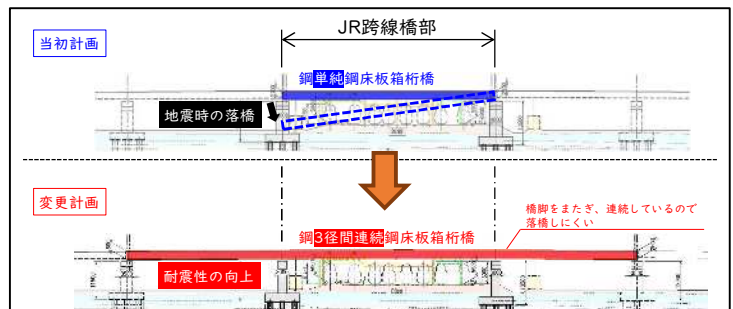
事業期間の見直し理由(1/1)

③橋梁計画の見直しによる事業期間の延長 (R8 ⇒ R11)

- JR跨線橋の橋梁形式や施工方法等について、関係機関（JR九州、JR貨物）との設計協議に期間を要した。
- また、協議の結果、橋梁形式や橋長が変更となったことにより、施工にも期間を要する見込みとなった。

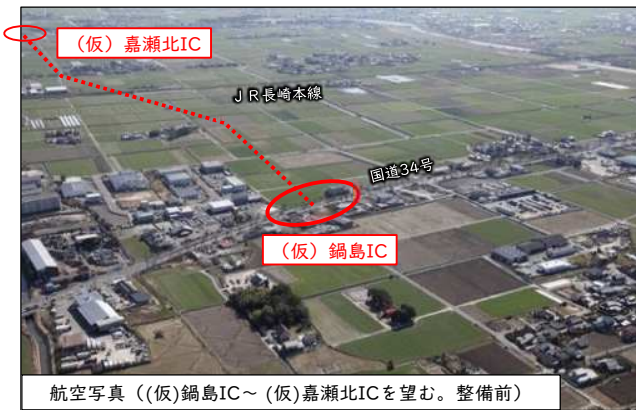


JR跨線橋 計画見直し区間

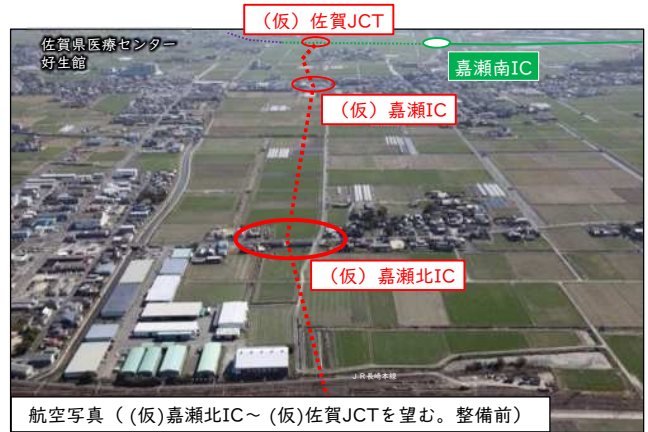


Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

現地状況



航空写真 ((仮)鍋島IC～(仮)嘉瀬北ICを望む。整備前)



航空写真 ((仮)嘉瀬北IC～(仮)佐賀JCTを望む。整備前)



現場の状況 (佐賀JCT～嘉瀬IC間。整備中)



施工状況 (嘉瀬IC～(仮)嘉瀬北IC間。整備中)

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○前回再評価時より大きな変化は見られず、依然として事業の必要性は高い。

(前回再評価(R2)時点)

○佐賀県の人口は減少しているものの、核家族化等により世帯数は増加傾向にあり、自動車保有台数は増加している。1世帯あたりの自動車保有台数は九州平均を上回っている。

また、公共交通機関が充実していない本県においては、移動手段として自動車に頼らざるを得ない状況であり、自動車への依存度は高い。

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

費用対効果

○事業内容の見直し（事業費の増加）に伴う費用の増

○工期の延長による便益の減

$$\text{費用対効果 (B/C)} = \frac{\text{総便益 (B)} \quad 619.0 \text{ 億円}}{\text{総費用 (C)} \quad 376.7 \text{ 億円}} \div 1.6$$

※基準年（令和4年度）における現在価値

<参考>

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 全線軟弱地盤上に構築することとなるため、地盤特性を的確に把握し効率的な軟弱地盤対策工法を選定している。
- 他工事で発生する残土を盛土等に流用する。

(代替案の検討)

- 特になし

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 道路の整備により、「産業・観光の活性化」や「交通の円滑化」及び「安全性の向上」が図られる。
- 費用対効果についても、B/C=1.0以上(1.6)が確保されている。
- 事業の進捗率は、事業費ベースで約23%[約103億円/約447億円]
(令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は約54%となっている。
- 各市町による期成会や協議会の設立、要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

令和4年度公共事業再評価諮問地区「継続・中止」理由書等

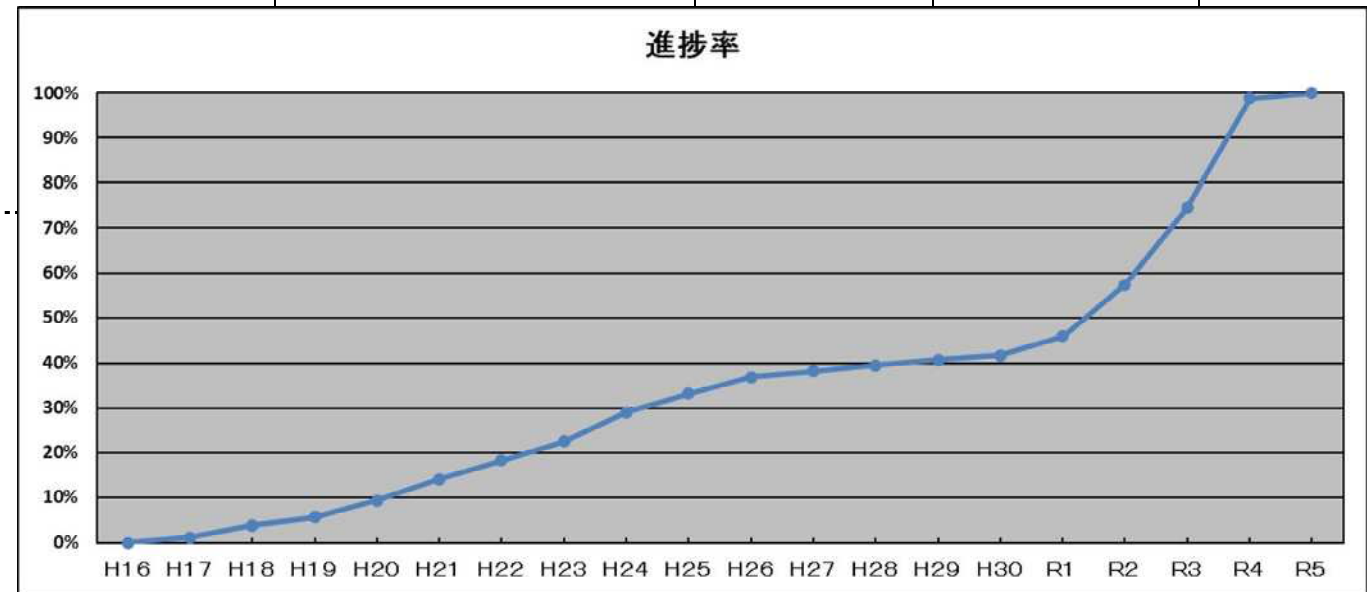
(課名： 道路課)

<p>事業名 (路河川等名)</p>	<p>道路整備交付金事業(社会資本整備総合交付金) 一般国道204号(唐房バイパス工区)</p>
<p>継続理由</p>	<p>○国道204号(唐房バイパス工区)は、バイパス整備により、交通の円滑化や安全性の向上等を目的とした事業である。 ○費用対効果については、$B/C=1.0$ (≈ 0.991) で1.0未満となっているものの、B/Cでは計測されない効果も期待される。 ○事業進捗率は、事業費ベースで約74% [約63億円/約84億円] (令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は99%となっている。 ○各市町による期成会の設立、要望活動が行われるなど、早期完成が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 ○よって、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。</p>
<p>B/Cの 算出方法</p>	<p>【 便益 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 走行時間短縮便益 = 89.7 億円 ・ 走行費用短縮便益 = 1.5 億円 ・ 交通事故減少便益 = 4.7 億円 <li style="padding-left: 20px;">合計 = 95.9 億円 <p>【 費用 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費 = 94.6 億円 ・ 維持修繕費 = 2.2 億円 <li style="padding-left: 20px;">合計 = 96.8 億円 <p style="margin-left: 40px;">費用便益 B/C = $95.9 / 96.8$ = 1.0 (≈ 0.991)</p>
<p>備考</p>	

令和 4 年度再評価対象事業
(対象：令和 4 年度 再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間 (5年) が経過する前に、工期延長または事業費増額の変更を行う事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業案)	
R 4 - 1 1 月再評価時点		道路整備交付金事業 一般国道204号 (唐房バイパス工区) 事業主体：県 事業地：唐津市 佐志浜町～鳩川	本路線は、玄界灘に面する唐津市各地区や東松浦郡玄海町を連絡し、産業・経済・観光面など、地域を支える重要な路線である。また、唐房入口交差点については、平成 25 年に主要渋滞箇所に位置付けられ、依然として渋滞が発生している他、現道は幅員狭小で歩道も無く円滑な交通に支障をきたしている。現道の通過交通を当該事業で整備するバイパスへ転換することにより、現道沿線の交通環境の改善や交通安全向上など整備効果を発現するため、事業を継続したい。	全体事業費：83.0億円 工期：H17～R4 事業内容 延長 L=2.0km 幅員 W=6.5(11.0)m 改良工 L=2.0km 舗装工 L=2.0km トンネル工 1箇所 橋梁工 1橋 測定 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約75% (事業費ベース) (年平均進捗率 5%) 用地補償は99%完了	前回評価時より、大きな変化はみられない。 (呼子方面への観光客数は、若干の増加傾向にある。また、唐津東港へのクルーズ船の寄港により、新たな観光の活性化が期待でき、今後交通量の増加が見込まれる。)	全体事業費増に伴う費用の増額 B/C=1.0 (≒1.004)	(コスト削減) ○再生資材の利用促進を図っている。 (代替案の検討) ○特になし	前回再評価時より事業費増額のため再評価	継続 (理由) ・当該箇所の事業の必要性に変わりはない。 ・B/C1.0以上(B/C=1.0)が確保されている。 ・要望活動が行われるなど、早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業をすることとしたい。	
				現時点	全体事業費：84.0億円 工期：H17～R5 事業内容 延長 L=2.0km 幅員 W=6.5(11.0)m 改良工 L=2.0km 舗装工 L=2.0km トンネル工 1箇所 橋梁工 1橋 測定 一式 用地補償 一式	R3末進捗率：約74% (事業費ベース) (年平均進捗率 4%) 用地補償は99%完了	前回評価時より、大きな変化はみられない。	全体事業費増に伴う費用の増額及び事業期間の1年延長 B/C=1.0 (≒0.991)	(コスト削減) ○再生資材の利用促進を図っている。 (代替案の検討) ○特になし	前回再評価時より事業費増額及び事業期間延長のため再評価	継続 (理由) ・当該箇所の事業の必要性に変わりはない。 ・B/C1.0 (≒0.99)で1.0未満となっているものの、B/Cでは計測されない効果も期待される。 ・要望活動が行われるなど、早期完成が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業をすることとしたい。
				理由等	(事業費) ・法面対策工の追加による工事費の増 ・事業期間の1年延長						



令和4年度 再評価委員会

事業名：道路整備交付金事業

路線名：一般国道204号

とうぼう

(唐房バイパス工区)

からつ

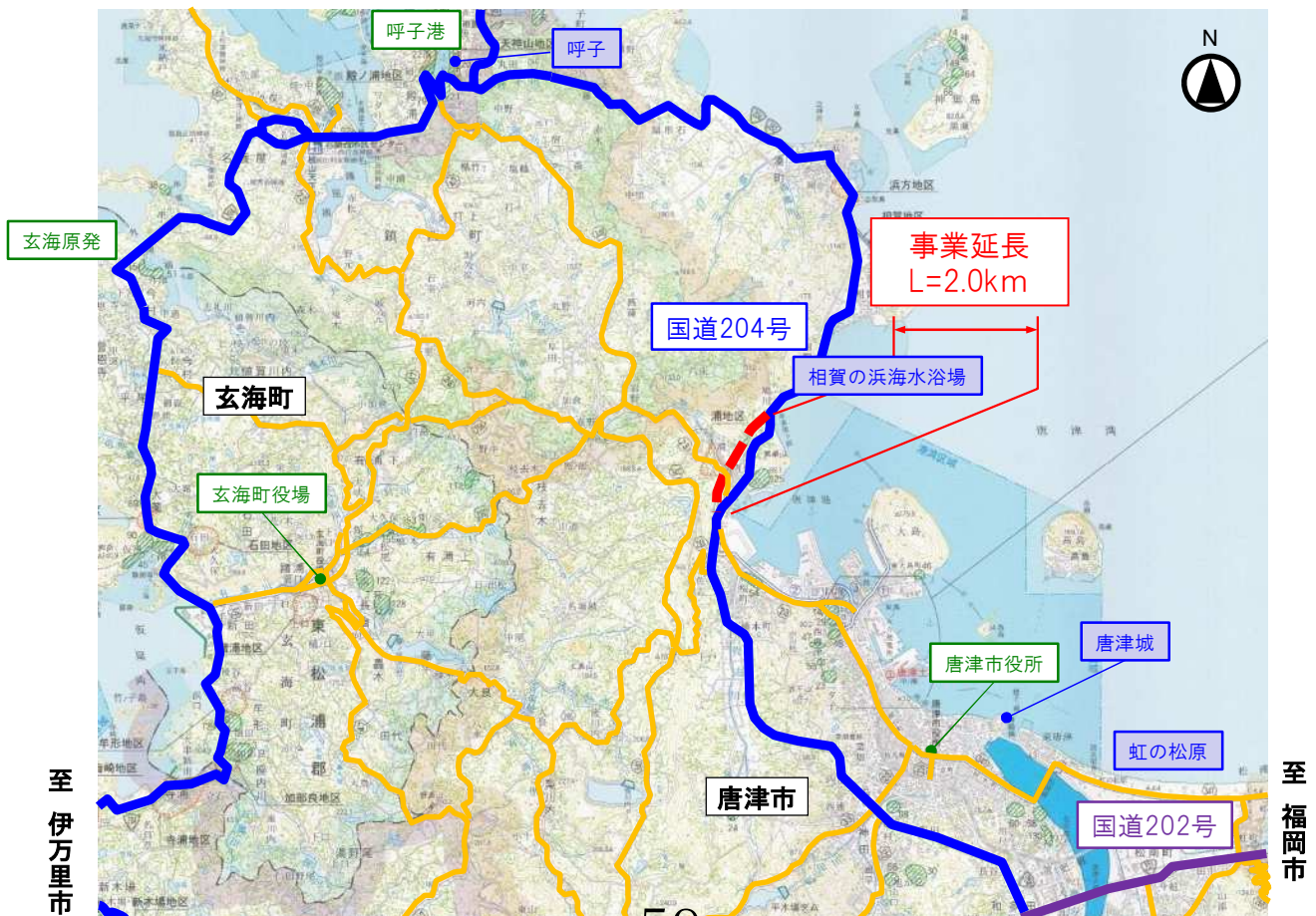
さしはま

はとがわ

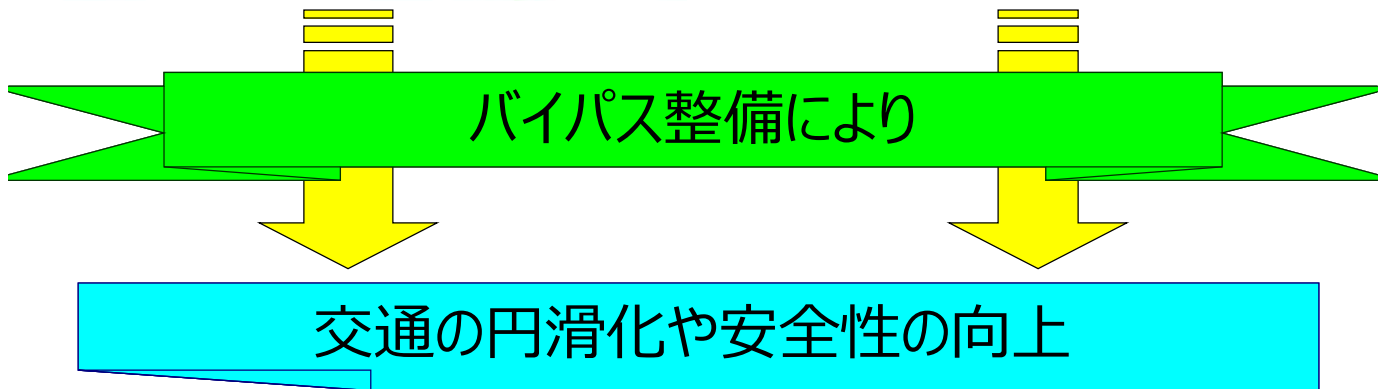
事業地：唐津市佐志浜町～鳩川

前回再評価時(令和4年11月)より
事業費増額・事業期間延長のため
再評価

位置図



事業目的



事業概要

	前回再評価(令和4年11月)	今回
全体事業費	83.0億円	84.0億円
工期	平成17年度～令和4年度	平成17年度～令和5年度
全体延長	2.0km	2.0km
計画幅員	6.5(11.0)m	6.5(11.0)m
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=2.0km ・舗装工 L=2.0km ・トンネル工 1箇所・橋梁 1橋 ・テスト 一式・用地補償 一式 	<ul style="list-style-type: none"> ・改良工 L=2.0km ・舗装工 L=2.0km ・トンネル工 1箇所・橋梁 1橋 ・テスト 一式・用地補償 一式
費用対効果	1.0(≒1.004)	1.0(≒0.991)

事業の進捗状況

	令和3年度まで	令和4年度	令和5年度
事業費(億円)	62.5	20.0	1.5
進捗率(%)	74.4	98.2	100.0
用地進捗率(%)※	99.6	100.0	100.0

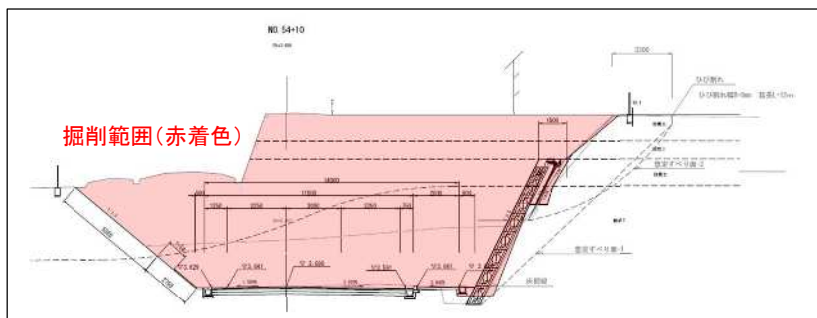
※面積ベース

前回再評価(令和4年11月)後に生じた変更理由

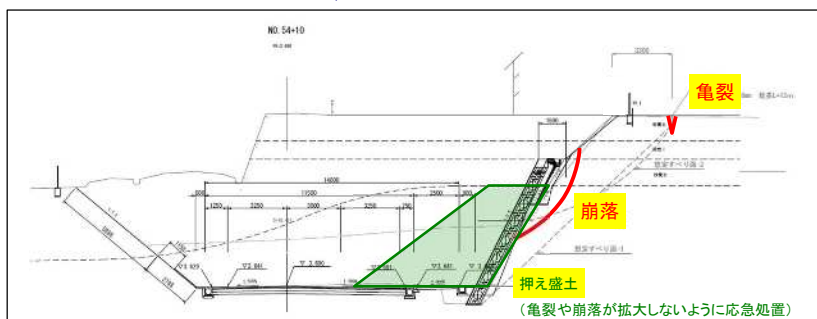
<事業費増額及び事業期間延長>

- 法面の亀裂及び崩落への対策工事の追加による工事費の増
- 上記工事の施工に伴う事業期間の延長

横断面図

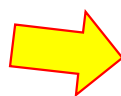
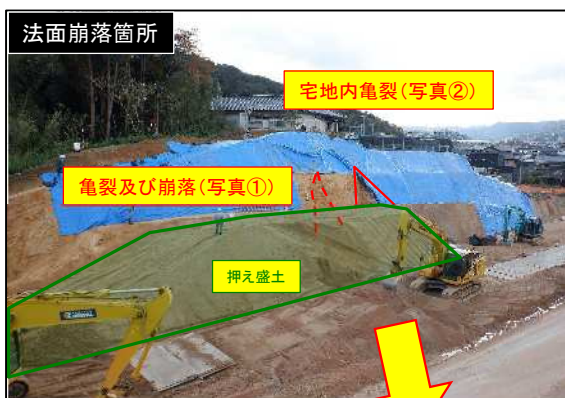


掘削していたところ、一部に亀裂及び崩落が発生

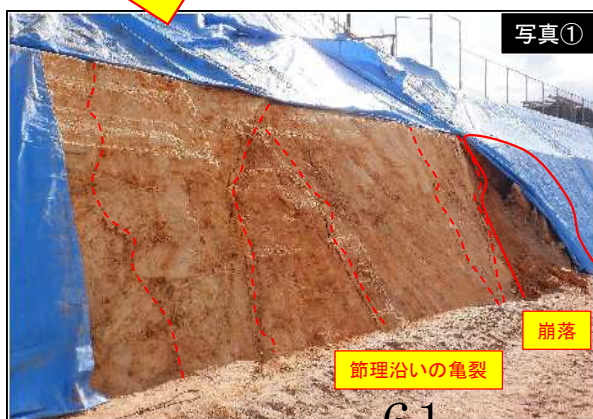


前回再評価(令和4年11月)後に生じた変更理由

●法面亀裂及び崩落の状況



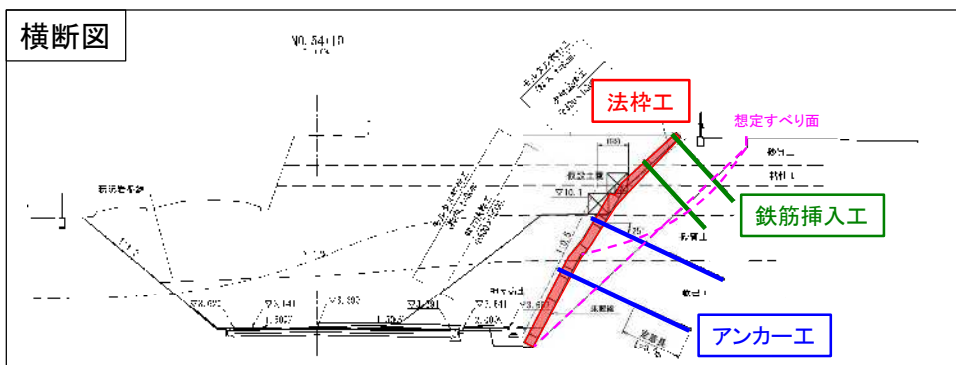
法面上部、宅地内に亀裂
法肩より3.3m付近
L=12m、W=8mm



法面の亀裂及び崩落

前回再評価(令和4年11月)後に生じた変更理由

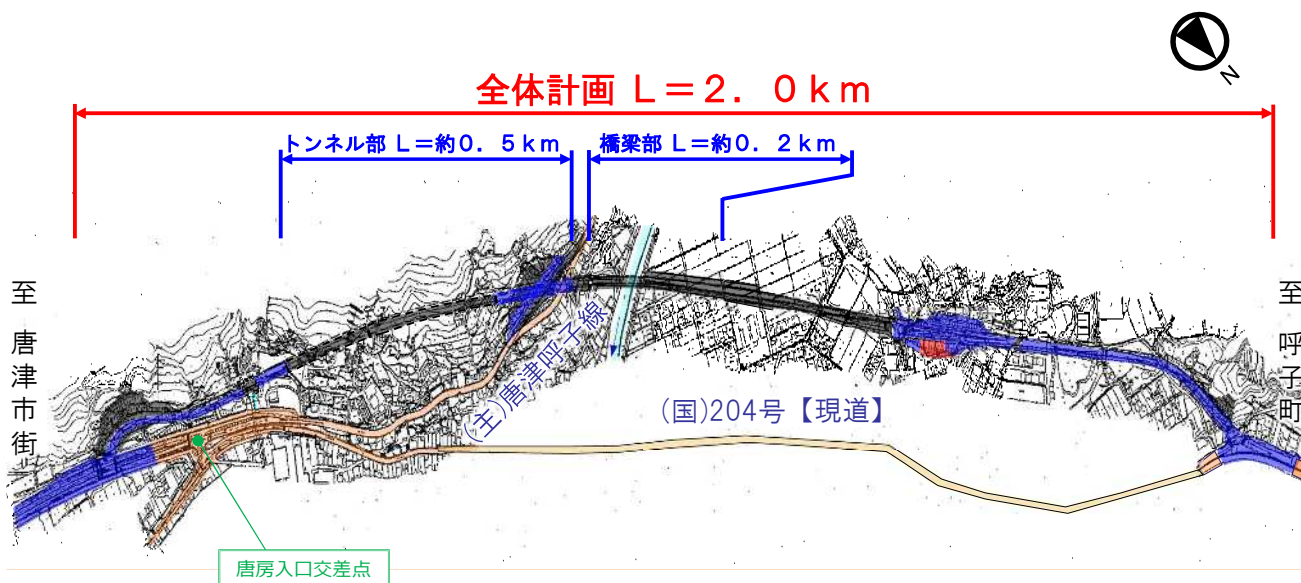
●対策工法(法枠工+鉄筋挿入工、アンカー工)



<参考写真>

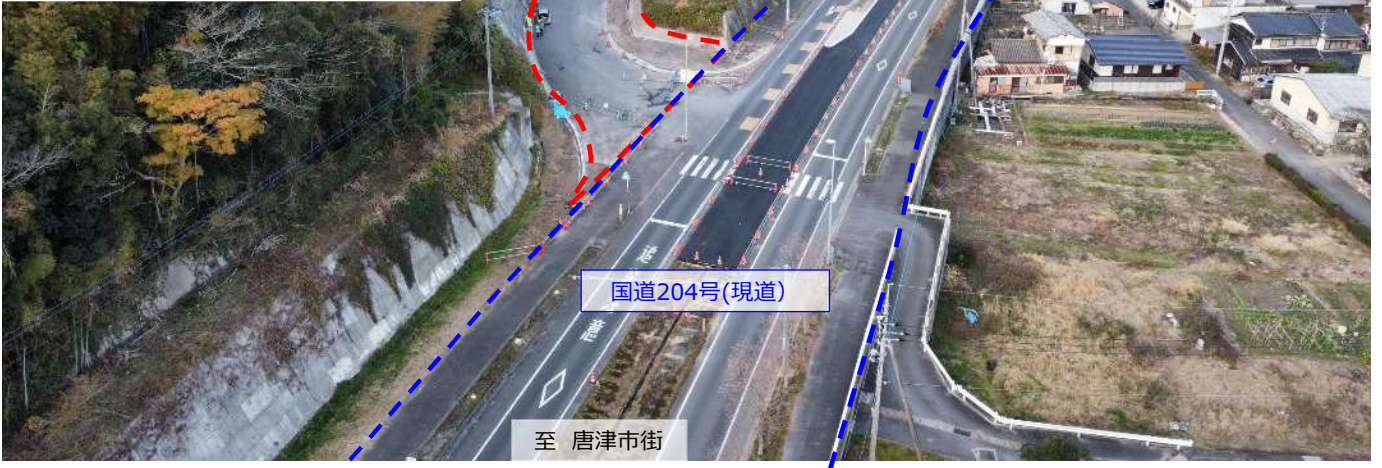


事業進捗状況平面図



凡例	
黒	令和3年度まで
青	令和4年度施工箇所
赤	令和5年度施工箇所

令和4年12月 現地状況

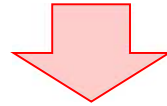


令和4年12月 現地状況

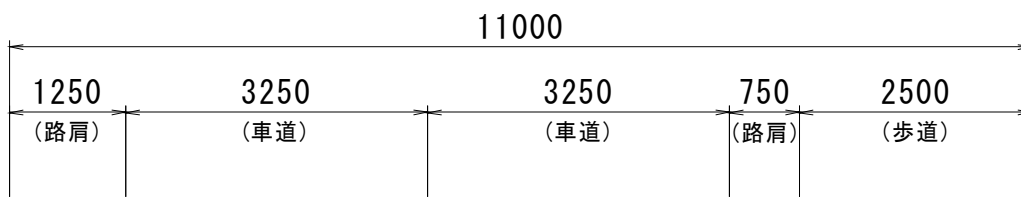


横断図

現況



計画



事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 前回評価時より、大きな変化はみられない。

(呼子方面への観光客数は、若干の増加傾向にある。また、唐津東港へのクルーズ船の寄港により、新たな観光の活性化が期待でき、今後交通量の増加が見込まれる。)

費用対効果(1/2)

前回再評価時と比較して、

○法面対策工事の追加に伴う費用の増

$$\text{費用対効果(B/C)} = \frac{\text{総便益(B) 95.9億円}}{\text{総費用(C) 96.8億円}} \approx 1.0(0.991)$$

※基準年(令和3年度)における現在価値

<参考>

○総便益(B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用(C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

費用対効果(2/2)

○B/Cでは計測できない効果

- ◇主要観光地である玄海国定公園や重要港湾唐津港などへのアクセス向上による観光や物流等の活性化
- ◇移動時間の短縮による農水産物の輸送効率の向上
- ◇災害時の緊急輸送道路としての機能の確保
- ◇主要渋滞箇所である唐房入口交差点の渋滞緩和による騒音やCO₂排出量削減

○残事業B/C

- ◇残事業B/Cは4.5で1.0以上となる

※ 残事業B/Cとは： 再評価時点までに発生した既投資分のコストや既発現便益を考慮せず、事業を継続した場合の費用対効果

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 再生資材の利用促進を図っている。

(代替案の検討)

- 特になし

対応方針(事業課案)

- 国道204号(唐房バイパス工区)は、バイパス整備により、交通の円滑化や安全性の向上等を目的とした事業である。
- 費用対効果については、 $B/C=1.0$ (≈ 0.991)で1.0未満となっているものの、 B/C では計測されない効果も期待される。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約74%[約63億円/約84億円](令和3年度末)であり、そのうち用地進捗率は99%となっている。
- 各市町による期成会の設立、要望活動が行われるなど、早期完成が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。